

SLOW DX・AX

宇宙一カンタンな スローDX・AXの教科書

成長進化する介護施設をつくる、
たった1つの考え方

1日1つ。そこから始める、介護のDXとAX



著者 嶺井 政哉

株式会社ライフシフト

ゆっくりでもいい。1日1つでもいい。
無理をしなくてもいい。それでも驚くほど大きな変化が起きる。

目 次

はじめに 7

- ちょっとだけ、読んでみてください
- 赤字からの、黒字転換
- 劇的な収益構造の改善
- むずかしいことは、しません
- ロマンとそろばん
- DXの次に来るもの——AX
- 宇宙一カンタンな方法で
- まとめ

第1章 なぜ「スロー」が最強なのか 23

- なぜ「スロー」なのか、先に答えを言います
- 99%の施設が間違える「DX・AXの始め方」
- 変わらない本当の理由は、忙しさではありません
- 始めるのは、早いほうがいい
- 10年後に残っていた5店舗が、全部やっていたこと
- 1日たった5分で、施設が変わり始める
- 70代のスタッフが「楽しい!」と言った理由
- 月50時間が消える? 数字で見る衝撃の効果
- その「トラブル」、エラーだと思ってみてください
- 成功する施設だけが知っている「3つの鉄則」
- 失敗する施設と成功する施設、たった1つの違い
- 第1章のまとめ

第2章 介護DX・AXの正体 53

- 介護のDX・AXの正体を、先に明かします
- 「ゼロから考えるな」が最強の戦略である理由
- 実はすべて「情報の問題」だった
- 「100点」を捨てた施設が、なぜ伸びるのか
- 「見た目」だけで経営が変わる魔力
- 「あの人だけズルい」をなくす方法
- 「次に何すればいいか」をもう悩まなくていい
- 人がもっと輝く時代がやってくる
- DXとAXは、何が違うのか
- 第2章のまとめ

第3章 スローDX・AXで、何が変わるのか 72

- まず、手に入るものを全部お見せします
- 「いつ始めるか」だけの問題
- 取りこぼしていた加算、全部取り戻せます
- 年間180万円が浮く？ 経費削減のカラクリ
- 目の前の人に、もっと寄り添える時間をつくる
- 「辞めたい」が「ここで働きたい」に変わる瞬間
- 偶然生まれた「マナポーズ」に隠された秘密
- 今この時代に介護をしている、という幸運
- 「効果が出る前にやめた」が最大の失敗
- 第3章のまとめ

第4章 カイポケ連携AI「神マナ」とは 88

- 神マナが何を解決するのか、先に言います
- こんなお悩み、ありませんか？
- カイポケを「やめなくていい」という発想
- ボタン1つで、カイポケに自動転記

- 「カイボケ連携AI」の本当の意味
- この1アプリで、ここまでできる
- DX・AXが続かない最大の原因
- 毎日タップするだけで、施設が「賢く」なる
- 第4章のまとめ

第5章 神マナ完全ガイド 103

- 7つの神機能で、何ができるようになるか
- 7つの神機能、すべて見せます
- 居宅マナ
- 訪看マナ
- 訪問マナ
- 記録マナ
- 勤怠マナ
- 通所マナ
- 福祉用具マナ
- どのマナでも使える、共通の便利機能
- わからなくなったら、マナちゃんに聞けばいい
- 画面を見せながら、相談できる
- パソコンの大きな画面でも
- 7つの機能が連動する「神」の理由
- 第5章 神マナ完全ガイドのまとめ

第6章 導入した施設の声 126

- 第6章のはじめに
- ケアプランセンター愛ねっと（大阪府／居宅介護支援事業所）
- 株式会社ル・シエル／ケアプランそら（滋賀県・京都府／居宅介護支援・通所介護・訪問介護）
- ケアプランパーネル（沖縄県・宜野湾市／居宅介護支援事業所）

- 居宅介護支援事業所 島の風（沖縄県・うるま市／居宅介護支援・通所介護）
- 有限会社陽気（沖縄県・南城市／有料老人ホーム・デイサービス・訪問看護・訪問介護）
- 訪問介護ようき（沖縄県・南城市／訪問介護）
- 訪問看護ようき（沖縄県・南城市／訪問看護）
- オープン あい ケアプランセンター（静岡県・浜松市／居宅介護支援）
- 第6章のまとめ

第7章 さあ、スローDX・AXをはじめよう 159

- 4つのステップで、今日から始まります
- この本との出会いは、「たまたま」じゃない
- たった30秒で始まる第一歩
- 10分でカイポケとつながる
- 「無料で全機能」の秘密
- 「もう手放せない」と感じたら
- まず、いまの位置を知る
- あなたはもう、スローDX・AXを始めている

おわりに 170

- この本を最後まで読んでくださったあなたへ
- ロマンとそろばん、ふたたび
- あなたの「本当は」、きっと叶う
- 最後に、お礼を言わせてください
- あなたの声を聞かせてください
- ビジョンマップ

著者プロフィール 182

- 嶺井 政哉
- 株式会社ライフシフト
- 無料ダウンロード



はじめに

はじめに

ちょっとだけ、読んでみてください

1分だけ、我慢していただけませんか

正直に申し上げます。

この本は、あなたに読んでほしくて書きました。
でも、忙しいですね。私も現場を見てきたので、それはよく分かっています。

だからお願いは、ひとつだけです。

「はじめに」と、第1章だけ。1分だけ、我慢して読んでみてください。

その1分で何を書いてあるか、先にお伝えします。

**赤字だった介護事業所が、5年で売上3億円になるまでに何を
したのか。**

売上が増えた、という話ではありません。

赤字を抜けて**利益の出る体質**に変わり、その原資で**働く人の
給与を上げてきました。**

スタッフの定着率も、資格を取る人の割合も、ケアの質も、
満床率も上がりました。

銀行からの格付けは、次の段階へ上げることを経営目標に置
いています。

伸びたのは売上ではなく、経営の体力です。

良くなったのは、会社の数字だけでもありません。

利用者さんに向き合える時間。ご家族の安心。地域の受け
皿。

私たちはこれを**八方よし**と呼んでいます。

そして今、**5年後に11億円という売上計画**を立てるまで
になりました。

勢いで掲げた数字ではなく、**続けられる体制をつくったうえ
での計画**です。

さらにこの本には、そこまでの道のりだけでなく、
これから私たちがどこへ向かうのか——その先の地図も書いてありま
す。

道具をデジタルに置き換える「DX」の、次。

AIが記録や書類を下書きし、実行するところまで引き受ける「AX」の話です。

特別な才能の話では、ありません

むしろ逆です。

ITが苦手な70代のスタッフがいて、書類の山に埋もれていて、「新しいことを始める余裕なんてない」という、ごく普通の介護事業所の話です。

やったことは、たったひとつ。

— 1日1つ。 —

それだけです。

読んでみて「うちには関係ないな」と思われたら、そこでやめてください。

それでも、1分は無駄になりません。**たぶん、何かひとつは持ち帰れます。**

では、始めます。

赤字からの、黒字転換

はじめまして。嶺井 政哉と申します

いきなり「DX」や「AX」の話から始めても、たぶん、読む気にはなれないと思います。

なので、その話は後回しにします。

先に、私の話をさせてください。

5年前、私は、潰れかけた介護事業所の中にいました。

義母から渡された、赤字の会社

2018年、29歳のとき、妻と結婚しました。妻の家族は、介護事業を営む会社「陽気」を長年経営しており、義母が代表を務めていました。結婚を機に、私もその世界に足を踏み入れることになります。

2020年、私は株式会社ライフシフトを立ち上げました。介護の現場をテクノロジーで支えたい。そんな思いからのスタートでした。

ところが、ちょうどその頃です。

陽気は、創業以来**29期目にして初めての赤字**を出しました。

そこに、コロナが重なった。

介護の世界に入った初年度に、渡されたのが赤字の会社だった、ということです。

正直、**強烈な危機感**を覚えました。

何が起きているのかも、何から手をつければいいのかも、分かりませんでした。

劇的な収益構造の改善

そこから5年で、何が変わったのか

結論から書きます。

その会社は、いま黒字です。

売上は3億円になり、5年後には11億円の計画を立てるところまで来ました。

魔法のような一手があったわけではありません。

やったことは、地味です。

数字を直視した日に、道が開けた

現実から目をそらさない。

乗り越えられた理由は、突き詰めるとそれだけでした。

どんぶり勘定をやめました。

何にいくらかかっているのか。どの事業所が、どの月に、いくら足りていないのか。

見たくない数字ほど、先に見る。それだけです。

赤字から黒字へ、そして3億円へ

売上 1億円 → 3億円

そして今、**5年後に11億円**という売上計画を立てるまでに
なっています。

ただ、私が本当に変わったと思っているのは、売上の桁ではありません。

赤字が黒字になり、利益が残る形になりました。

残った利益で、**スタッフの給与を上げられるようになった**。

すると、人が辞めなくなりました。**定着率**が上がったのです。

長く働けるから、**資格を取る人が増えた**。

資格を持った人が増えれば、**ケアの質**が上がる。

ケアの質が上がれば、ご家族やケアマネさんからの信頼が増して、**空床が減っていく**。

そして満床に近づけば、また利益が残る。

— ひとつが良くなると、次が良くなる。 —

数字は、そうやってつながっています。

同じように、借入や設備の計画も、勘ではなく数字で立てられるようになりました。

銀行との対話も、**お願いする側から、計画を説明する側**に変わりました。

売上は、その結果として付いてきてだけです。

先に伸びていたのは、いつも「経営の体力」のほうでした。

そして令和6年、32期目の決算を迎え、妻が代表を引き継ぎました。成長・進化する介護施設を、自分たちの手でつくりけている。そう実感できる今があります。

では、その「地味なこと」とは、何だったのか。

その話に入る前に、ひとつだけ、お伝えしておきます。

むずかしいことは、しません

「宇宙一カンタン」は、大げさではありません

デジタル、IT、DX、そしてAX。

言葉はいろいろありますが、思うことは、たぶんひとつだと思います。

「大事なのはわかる。**でも——**」

- ・ 何から手をつければいいのか**わからない**。
- ・ 詳しい人が**社内**に**いない**。
- ・ 導入したところで、**現場**が**使いこなせるか不安**。
- ・ そもそも、日々のケアと書類で**手いっぱい**で、新しいことを始める**余裕がない**。

全部、私が思っていたことです。

そして、あなただけの意見でもありません。

中小規模の事業所の取組率は、大企業の半分以上。

多くの介護施設が、同じところで止まっています。

止まっているのは、あなたのせいではありません。

やり方が、難しすぎただけです。

だから、宇宙一カンタンにしました

安心してください。この本に、難しい話は出てきません。

- ・ 新しい機器に、いちどきに**入れ替える必要はありません**。
- ・ 詳しい人を、新しく**雇う必要もありません**。
- ・ 今のやり方を、**捨てる必要もありません**。

私たちがやったのは、**今あるものを活かしたまま、足りないところだけを補った。**

それだけです。

しかも、一度に全部ではありません。

— 1日1つ。 —

それだけです。

「宇宙一カンタン」と書いたのは、大げさに言いたいからではありません。

これ以上カンタンにしようがないところまで削ったものだけを、この本に残したからです。

難しいことは、続きません。

続かなければ、何も変わりません。

続けられたことだけが、5年後の数字になりました。

大丈夫です。1日1つで、届きます

耳慣れない、難しそうな言葉がタイトルにあるのに、あなたは、この本を手にとってくれました。

日々の業務の中で感じる、ちょっとした違和感。なんとなくの危機感。「**このままでいいのだろうか**」という小さな声。

その感覚を大切にしてほしいのです。きっと、**今が最高のタイミング**なのかもしれません。

なぜなら、変化のきっかけは、いつもそこから始まるからです。

ロマンとそろばん

想いを守るために、数字がある

介護事業は、サステナブル（持続可能）でなければなりません。

続けることで、可能性が残る。

— 続けられなければ、どんなに素晴らしい理念も、届けた
い想いも、そこで途絶えてしまう。

だからこそ、「ロマン」と「そろばん」の両方が必要です。

素晴らしい理念を持っている介護施設は、日本中にたくさんあります。

「こういう施設にしたい」

「こういう会社にしたい」

その想いに「そろばん」——つまりDX・AXが加われば、最高の結果になる。

私はそう確信しています。

本書を書いた理由はシンプルです。

**1社でも多く
進化・成長する
介護施設を増やしたい。**

裏を返せば、

1社でも多く DX・AXで諦めてしまう介護施設を減らしたい。

だから、「**宇宙一カンタンな方法**」を紹介していきます。

DXの次に来るもの——AX

AIが「実行」まで引き受ける段階へ

この本の初版は『スローDX成功法』という題でした。

第2版から『宇宙一カンタンなスローDX・AXの教科書』に改めています。

AXという言葉足をすくった理由を、お話しさせてください。

道具は入った。でも、半分の施設は楽になっていない

公益財団法人介護労働安定センターの「令和6年度介護労働実態調査」に、私がずっと引っかかっている数字があります。

75.4%

ケア記録・ケアプラン等の入力・保存・転記の機能を、日常的に利用している事業所

4分の3の事業所が、もうデジタルの道具を使っています。
ところが——

昼間の業務負担の軽減に**効果を感じている事業所** **49.4%**

夜間の業務負担の軽減に**効果を感じている事業所** **44.6%**

（令和6年度介護労働実態調査）

道具は入ったのに、半分の事業所は「楽になった」と言えていない。

なぜでしょうか。

DXは「置き換え」。AXは「実行」

答えは、こういうことだと思っています。

DXは、紙や手作業をデジタルに置き換えることです。

手書きの記録用紙がタブレットになる。ファイルの山がクラウドになる。

でも、よく見てください。

入力する。確認する。転記する。——その実行は、まだ人が担ったままです。

置き換えただけでは、仕事の量は変わりません。書く場所が紙から画面に移っただけです。

だから「使ってはいるけれど、楽になった実感はない」が起きる。

AX——AIトランスフォーメーションは、その先です。

DXがつくったデジタルの土台の上に、

AIが「判断」と「実行」まで担う。

記録・計画・報告といったアウトプットそのものを、

AIが下書きし、実行する。

人は、確認と判断に集中する。

DXは、実行を人に残します。

AXは、実行をAIが引き受けます。

置き換えた上に実行が乗るぶん、AXはDXの段階よりも効果を実感しやすい。

半分の事業所が足りていないと感じているのは、まさにこの「実行」の部分なのです。

私たちは、気づけばAXをつくっていた

神マナをつくってきた道のりは、振り返るとそのままAXでした。

訪問先で、いつもどおり話す。

それだけで記録の下書きができていて、カイポケにも入っている。

「入力する」という仕事が、どこにも残っていない。

人がやっているのは、**目を通して、これでいいと決めること**だけです。

ただ——ここでも、急がなくていい。

AIを入れるからといって、明日から全部を変える必要はありません。

1日1つ。それはDXでもAXでも、まったく同じです。

だからこの本は『宇宙一カンタンなスローDX・AXの教科書』になりました。

やり方は変わっていません。届く場所が、少し遠くなっただけです。

宇宙一カンタンな方法で

最初の一步を踏みだしましょう。

急がなくて大丈夫です。

ゆっくりでいい。

1つずつ、無理なく、進化・成長する状態をつくっていく。
サステナブルであり続けるために。

あなたが思い描く理想の施設、理想の会社。

その実現に向けて、この本を通して一緒に歩いていけたら嬉しいです。

さあ、はじめましょう。

まとめ

この「はじめに」でお伝えしたかったこと。

1

宇宙一カンタンに、成長・進化する

難しいことは続きません。続けられたことだけが、5年後の数字になりました

2

危機は「数字を直視する」ことで乗り越えられる

実体験から確信しています

3

「ロマン」と「そろばん」の両方が必要

理念だけでも、数字だけでもダメ

4

DXは「置き換え」、AXは「実行」

道具が入っても、入力・転記が人に残ったままなら楽になりません

5

今が最高のタイミング

この本を手にとったあなたは、もう変わり始めている

6

「1日1つ」で進める

DXでもAXでも、やり方は同じ。ゆっくり、無理なく



第1章

なぜ「スロー」が最強なのか

なぜ「スロー」なのか、先に答えを言います

この章で手に入るもの

この章は、「なぜ急がないほうが、結局は速いのか」という話です。

先に、全部お見せします。

01 変わらない本当の理由

忙しさではなく「恐怖」です。怖いときほど直視する。ただし一度に全部は見ない——それがスローです。

02 始めるタイミング

「早く始めて、ゆっくり進む」。慣れは回数、回数には時間が必要です。だから、始めるのは早いほうがいい。

03 焦らなくていい理由

「早く行きたければ一人で行け。遠くへ行きたければ、みんなで行け」。1人も取り残さないために、あえてスローで進みます。

04 1日1つで足りる根拠

1日20分の短縮を5つ。それだけで1ヶ月に50時間——まるまる6日分が生まれます。

05 ITが苦手な人が変わる仕組み

決めるのは才能でも年齢でもなく「何回触ったか」。心理学の単純接触効果が、その正体です。

06 続く仕組みのつくり方

「楽しい」は気合いではなく設計です。小さな「できた！」が毎日1つ生まれる形にします。

07 詰まったときの考え方

「トラブル」を「エラー」と呼び替えると、手が動きます。愚痴で終わらせず、チームで打つ手を探す方法。

08 3つの原則と、やってはいけない5つ

成功する施設と失敗する施設を分けている、たった1つの違い。

読み終わるころには、「**うちにも、できそうだ**」に変わっているはずです。

ここから、ひとつずつ詳しくお話しします。

99%の施設が間違える「DX・AXの始め方」

アフリカのことわざが教えてくれること

アフリカに、こんなことわざがあります。

「早く行きたければ、一人で行け。遠くへ行きたければ、みんなで行け」

DXも、AXも同じです。

「一気にやろう」とすると、ついていける人と、ついていけない人が出ます。結果、一部の人が使いこなし、他の人は置いていかれる。やがて「やっぱりうちには合わなかった」と元に戻ってしまう。

でも、ゆっくり進めれば、全員がついてこられます。

1人も取り残さず、施設全体が変わっていく。

「遠くへ行く」ために、あえて「スロー」で行く。

うさぎとカメが教えてくれること

イソップ寓話の「うさぎとカメ」。

カメが勝った理由を、こう解釈する人が多いでしょう。

「コツコツ続ければ、いつか勝てる」

でも、もう一つ大切な教訓があります。

カメは、うさぎを見ていなかった。

カメはうさぎと自分を比較していません。

ただ自分のペースで、ゴールだけを見つめて歩き続けた。

スローDX・AXも同じです。

他の施設と比べて焦る必要はない。

「あそこはもうAIを使っている」「うちは遅れている」——そんな比較は意味がありません。

大切なのは、自分たちのペースで、一歩ずつ前に進むこと。

それが、**じわじわと確実に成功する**方法なのです。

これがスローDX・AXの根っこにある考え方です。

変わらない本当の理由は、忙しさではありません

怖いときほど、直視する

「やりたいんですが、時間がなくて」

導入のご相談で、いちばん多く聞く言葉です。

でも私は、この言葉をそのままは受け取らないようにしています。

なぜなら、時間ができても、始まらないからです。

本当の理由は、たいてい別のところにあります。

**変わらない理由は、忙しさで
はありません。怖さです。**

怖いのは、いいかげんな人ではありません

現場で「新しいものはちょっと」と言う人ほど、実は**責任を負っている人**です。

- ・記録が間違っていたら、監査で指摘されるのは自分
- ・請求がずれたら、返戻の処理をするのは自分
- ・事故が起きたら、ご家族に説明するのは自分

そういう立場の人にとって、変化そのものが脅威です。

「今のやり方なら、少なくとも間違っていない」。そう思うのは当たり前のことです。

実際にあった話をします。

ある精神科の訪問看護ステーションで、ソフトを切り替えたときのことです。

記録の書き方がひとつ変わっただけで、管理者の方から「不具合だ」というご連絡がきました。

よく話をうかがって、ようやく分かりました。

その方が見ていたのは、機能ではありません。**監査**です。

記録は、監査で最初に見られる書類です。

そこに少しでも見慣れない形が出ると、その方には「指摘されるかもしれない自分」が見える。

だから、小さなズレでも「不具合」という言葉になる。

怖い人は、細かいことを言っているではありません。

守るものがある、というだけです。

これは、現場の職員も、管理者も、経営者も、まったく同じです。

私も、いちばん怖いものを見ていませんでした

偉そうに書いていますが、私も同じでした。

「はじめに」で、赤字だった会社が黒字に変わった話をしました。

あのとき、いちばん時間がかかったのは、改善策を考えることではありません。

数字を開くことでした。

開けば、自分の経営の結果が全部そこに出ています。

だから、見ない。見ないから、何も打てない。打てないから、もっと怖くなる。

この輪から抜ける方法は、ひとつしかありませんでした。

怖いときほど、直視する。

ただし、一度に全部は見なくていい。

スローとは「直視できる大きさに割る」こと

ここが、この本でいちばんお伝えしたいことかもしれません。

スローDX・AXは、ゆっくりやることではありません。

怖くて見られないものを、**見られる大きさに割る**方法です。

一度に全部を変えようすると、失敗したときに戻る場所がありません。

だから動けない。これは意志の弱さではなく、**まっとうな判断**です。

でも、1日にひとつだけなら。

うまくいなくても、明日また元に戻せる。**戻れると分かっているから、手が伸びる。**

心理学では、こわいものに**少しずつ・繰り返し**触れることで恐怖が薄れていくことが、
半世紀以上にわたって確かめられています。効くのは強さではなく、**回数**です。

「1日5分」「まず3名だけ」「録音ボタンをひとつ押すだけ」。

この本がずっと小さな一歩の話をしているのは、そのためです。

この章のすべては、恐怖の扱い方です

ここまで読んで、気づかれたかもしれません。

この章でこれからお話しすることは、実は全部ひとつのことを言っています。

01 1人も取り残さない

自分だけ置いていかれる、という怖さへの答えです。

02 1日20分・1日ひとつ

一度に変わりすぎない。小さければ、いつでも戻れます。

03 触れた回数だけ人は変わる

知らないものは怖い。知っているものは、怖くありません。

04 「トラブル」を「エラー」と呼ぶ

怖さを、手が動く作業に置き換える言い換えです。

恐怖は、なくす必要はありません。

恐怖があるから、記録を残し、確認し、丁寧になれる。それは強みです。

必要なのは、恐怖に負けないことではなく、**恐怖を扱えるサイズにすること。**

その方法が、スローDX・AXです。

そして、恐怖を小さくする方法は、実はひとつしかありません。
慣れることです。次の節で、その話をします。

始めるのは、早いほうがいい

早く始めて、ゆっくり進む

ここまで「急がなくていい」という話をしてきた、
まったく逆のことを言うようですが、ひとつだけ急いだほうが良いことがあります。

始めることです。

早く始めて、ゆっくり進む。

遅く始めると、速く走らされる。

AIは、待ってくれません

AIの進化は、まっすぐではありません。**加速度がついています。**

1ヶ月後、3ヶ月後、半年後には、今できないことができるようになっていきます。

これは予想ではなく、この2年、実際に起きてきたことです。

ここで、少し意地悪な言い方をします。

「もう少し様子を見てから」と待った半年のあいだに、AIは半年ぶん先に行きます。

そのとき始めると、**半年ぶんをまとめて覚える**ことになります。

先に始めた会社は、その半年を1日ずつに分けて受け取っていました。
同じ量を学ぶのに、**片方はスロー、もう片方は全力疾走**です。

**待っても、学ぶ量は減りません。一度に
払うか、分けて払うかの違いだけです。**

恐怖を消す方法は、ひとつしかありません

前の節で、変わらない理由は恐怖だとお話ししました。

では、恐怖はどうすれば小さくなるのか。

説得ではありません。研修でもありません。

慣れです。

これは人間がもともと持っている、いちばん強い性質だと思っています。

はじめて触るものは怖い。10回触ったものは、もう怖くない。それだけのことです。

そして慣れは、**回数**でしか手に入りません。回数には、時間が要ります。

だから——**早く始めるしかない**のです。

社員がAIに触れる回数が増えると、会社の中の言葉が変わっていきます。

「AIって、なんか怖い」から、

「これ、こう使えばいいんじゃない？」へ。

この変化は、説明では起こりません。**触った人にしか起きない**変化です。

その意味で、社員がAIに触れている時間そのものに、すでに価値があります。

正直に書きます。神マナも、完璧ではありません

使いはじめれば、必ずひっかかりがあります。

AIが思ったとおりに動かない。前のソフトと書き方が違う。細かいところが自分のやり方と合わない。

全部、実際に起きています。

私たちは毎日、現場からいただく声をもとに、細かい調整を続けています。

「完成したものをお渡しする」のではなく、「一緒に育てていく」形です。

それでも早く始めたほうがいいと申し上げるのは、
触れ続けている会社だけが、進化をそのまま受け取れるからです。

AIが進化しても、神マナが新しい機能を出しても、毎日触っている人にとっては「また少し便利になった」で済みます。触れていない会社にとっては、入口の段差が、その分だけ高くなっています。

いま積んでいる記録が、いちばんの資産になります

私たちが目指している先を、最後に少しだけお話しします。

記録・書類・制度の情報が、ばらばらではなく**ひとつにつながった状態**をつくること。

そこまで来ると、AIは「書く」だけでなく、
「この記録で、運営指導のときに困らないか」を先に点検するところまで踏み込めます。

夢物語ではありません。そのための材料を、いま一つずつ積んでいます。

そして、その材料になるのは——**あなたの事業所が今日つくった記録**です。

早く始めた分だけ、積み上がります。

積み上がった分だけ、AIはあなたの味方になります。

この「いつ始めたか」で差がついた例を、私はひとつ、はっきり覚えて
います。

次の節でお話しさせてください。

10年後に残っていた5店舗が、全部やっていたこと

いま、介護・看護・医療・障害福祉は黎明期にいます

もう15年以上前になりますが、いまでもはっきり覚えているテレビ番組があります。

「昔とても人気だった、あのお店は今どうなっている？」——
そんな企画で、かつて行列ができていた10軒のお店を訪ねていく番組でした。

結果は、こうでした。

× 5軒 → ○

お店そのものが無くなっていた

× 5軒 → ○

残っていた。しかも当時よりずっと大きくなっていた

見ているうちに、私はあることに気づきました。
残っていた5軒が、**全部おなじことをしていた**のです。

インターネット通販でした。

2000年代の後半です。「ケーキやパンや、お惣菜が、ネットで売れるわけがない」。

そう言われていた時代です。実際、やっていないお店のほうが多かった。

その5軒は、まだ誰もやっていないうちに始めていました。
そして番組が訪ねたときには、**何ヶ月待ち・何年待ち**の通販になっていたのです。

差がついたのは、才能でも資本でもありませんでした。いつ始めたかでした。

なぜこの話を、いまでも覚えているのか。
同じことが、目の前でもう一度起きていると感じるからです。

いまが、介護・看護・医療・障害福祉の黎明期です

ChatGPTが世に出て、まだ2～3年です。

出たばかりの頃は、「大したことないね」「ここまでしかできないよね」と言われていました。

それが今どうなっているかは、みなさんご存じのとおりです。

そしてこの先の1年、2年、3年で、また同じだけ——いえ、それ以上に変わります。

一方で、**介護・看護・医療・障害福祉の現場でAIをどう使うか**については、

まだ誰も完成した答えを持っていません。**いまは、その答えを探している最中**です。

つまり、あの5軒が通販を始めたときと、同じ場所に私たちはいます。

「うまく使う」必要は、ありません

黎明期に触れておくことの値打ちは、使いこなせるようになることではありません。

その世界の言葉が分かるようになることです。

何ができて、何ができないのか。どこは任せて、どこは人がやるべきなのか。

なぜ「スロー」が最強なのか

これは説明では手に入りません。触った人の中にだけ、少しずつ溜まっています。

黎明期に必要なのは、うまくやることではありません。

その場にいることです。

神マナは、莫大な費用がかかるものではありません。
利用者3名までなら、期間の制限もなく無料で全機能を試せます。
まず**触れておく**。それだけで十分に意味があります。

最後に、私自身のことを

私の会社も、家族が営む「陽気」も、いまAIをフルに使っています。
ここから業績を5倍、10倍にしていく計画を、本気で進めているところです。

数年後に、「あのとき始めたから、ここまで来られたね」と言い合えるように。
そして願わくば、この本を読んでくださっているあなたの事業所とも、
同じ言葉を交わせるように。

だから、ひとつだけお願いさせてください。

ゆっくりで、いいんです。

ただ、恐怖に負けて、やめてしまわないでください。

では、その「ゆっくり」とは、具体的にどれくらいの量から始めれば
いいのか。
次から、数字でお見せします。

1日たった5分で、施設が変わり始める

「無理をしない程度」が、ちょうどいい

どれくらいスローがいいのか？

答えはシンプルです。

「無理をしない程度」

「今日は1つだけ新しいことをやってみよう」

それで十分です。

月曜日に記録の入力方法を覚えた。

火曜日は同じことをもう一度やってみた。

水曜日には、もう迷わずできるようになっていた。

この「小さな成功体験」の積み重ねが、スローDX・AXのすべてです。

1日1つ。たった1つだけ。それを続けるだけでいい。

70代のスタッフが「楽しい！」と言った理由

触れた回数だけ、人は変わる

新しいツールを使いこなせるかどうか。

それを決めるのは、才能でも、年齢でも、ITスキルでもありません。

「何回触ったか」です。

スマートフォンを思い出してください。

最初は「こんなの使えない」と思っていたはずです。

でも毎日触っているうちに、いつの間にか手放せなくなった。

これは、気合いや性格の問題ではありません。

心理学に**単純接触効果**という言葉があります。

くり返し触れたもののほど、人はそれを好きになる。

1968年にロバート・ザイアンスが示して以来、

くり返し確かめられてきた、人のごく基本的な性質です。

「触るほど好きになる」のは、根性の話ではなく、人のつくりの話なのです。

触れば触るほど、ゲーム感覚になっていくのです。

「今日は記録を5件入れてみよう」

「昨日より1分速く終わった！」

「報告書が自動で出来た！すごい！」

ゲーム感覚になったとき、DXもAXも「やらなきゃいけないこと」から

「やりたいこと」に変わります。

ちょっと楽しくなる

ちょっと楽になる

たったそれだけで、施設全体の空気が変わりはじめます。

正しいデータが、自然と蓄積されていく。

「成長している」という実感が、次の工夫を生む。

その工夫が、また少しだけ楽にしてくれる。

このサイクルが回り始めると、「楽しい」という感覚は自然と生まれてきます。

「楽しいと思う！」（ポジティブシンキング）ということではありません。

そういう**仕組み**になっているから、自然と楽しくなるのです。

この「楽しい」には、名前がついています

ゲーミフィケーションといいます。

達成感、進み具合の見える化、小さな「できた！」——

ゲームが人を夢中にさせる要素を、仕事の側に持ち込む考え方です。

思いつきの精神論ではありません。研究の裏づけがあります。

人がやる気になる3つの条件は、自分で決められること（**自律性**）、

できるようになる手ごたえ（**有能感**）、誰かとつながっていること（**関係性**）。

自己決定理論と呼ばれ、教育・医療・職場で40年以上、検証が重ねられてきました。

さらに、働く人の日誌を大量に分析したハーバードの研究チームは、仕事の中で人の気持ちを最も強く押し上げるものを見つけています。

昇給でも表彰でもなく、「**小さくても、前に進んだ**」という**実感**でした。

さきほどの3つのつぶやきを、もう一度見てください。

- ・「今日は記録を5件入れてみよう」—— **自分で決めている。**
- ・「昨日より1分速く終わった！」—— **できるようになっている。**
- ・「報告書が自動で出来た！」—— **小さく前に進んだ。**

偶然ではありません。**やる気が出る条件を、そのまま満たしている**のです。

ひとつ、正直に書いておきます。

ゲーミフィケーションの研究をまとめたレビューは、

「効果はおおむね認められるが、どんな場面でも同じように効くわけではない」と慎重です。

効き目を分けるのは、小さな「できた！」が毎日1つ生まれる形になっているか。

だから、1日1つなのです。

月50時間が消える？ 数字で見る衝撃の効果

たった1日の小さな変化が、1年後の大きな進化になる

「1日1つで本当に変わるの？」

この疑問に、数字で答えましょう。

たとえば「記録の入力を紙からアプリに変えた」。

これだけで、1日あたり約20分短縮できるとします。

$20分 \times 30日 = 月に10時間$ の節約。

では、1ヶ月かけて5つ改善したら？

$20分 \times 5つ \times 30日 = 月に50時間$ 。

50時間

1ヶ月でうまれる時間（まるまる6日分）

焦る必要はありません。

ゆっくりで、大丈夫なのです。

その「トラブル」、エラーだと思ってみてください

打つ手がある、と気づけるかどうか

現場には、いつも同じ顔ぶれの「困った」があります。

- ・「あの人だけ、どうしても使ってくれない」
- ・「また、言った言わないになった」
- ・「運営指導で、指摘されてしまった」
- ・「この作業、どう考えても時間がかかりすぎている」
- ・「気づけば、いつも同じ人に負担が偏っている」
- ・「あの業務は、あの人しかできない」

介護でも、看護でも、医療でも、障害福祉の現場でも、驚くほど同じです。

ここで、施設の未来が分かれます。

念のため書いておきます。

「同期できない」「入力したはずの記録が見当たらない」

こうしたアプリ側の不具合は、私たちが直す仕事です。遠慮なくお知らせください。

ここで扱うのは、そうではないほうの「困った」の話です。

「トラブル」と呼ぶか、「エラー」と呼ぶか

同じ出来事でも、呼び方を変えると、頭の動き方が変わります。

×トラブル → ○エラー

「トラブル」と呼ぶと、先に気持ちが動きます。困った、面倒だ、誰のせいだ。そして手が止まります。「エラー」と呼ぶと、頭は修正方法を探し始めます。どこで、何が、どうなったのか。手が動きます。

言葉遊びに聞こえるかもしれませんが。でも、これは訓練の効果として確かめられている話です。

新しいシステムの研修で「間違えないように」と教えたグループより、**「間違いは起きる。起きたら直せばいい」**と教えたグループのほうが、のちの成績が良かった。**エラーマネジメント**と呼ばれる研究で、くり返し報告されてきた結果です。

**エラーを減らそうとするより、
エラーを扱えるようにしたほうが、強い。**

課題には、必ず要因があります

そして、要因があるということは、**打つ手があるということ**です。

大事なのは、「なんとなくうまくいかない」で止めないこと。
ひとつ下に降りて、「何が」を見つけることです。

「この作業、時間がかかりすぎている」——ここで止めない。

「かかっているのは、夜勤帯だけ」

「先月から、記入項目の多い様式が3人分増えた」

「その様式は、前の担当者の頃から見直していない」

ここまで降りれば、もう半分は解けています。

要因が特定できた課題は、たいてい対応策があります。

逆に言えば、解けないと感じるときは、**まだ課題が大きすぎる**だけです。

「よそ者」のほうが気づく！？

実は、課題解決の糸口には、意外と、「よそ者」のほうが気づきます。

その打つ手は、いちばん詳しい人ではなく、
外から来た人から出てくるのがよくあるのです。

新人。別の事業所の方。ぜんぜん関係ない部署の人。

中にいる人ほど、そのやり方に慣れています。
慣れているから、「そもそも、なんでこの手順なんですか？」と聞けない。

外にいる人は、慣れていません。だから、聞けます。
その素朴な質問が、要因をあっさり照らすことがあります。

良いアイデアは、集团の内側よりも「境目」に立つ人から出やすい。
これも、経営学の研究が繰り返し示してきたことです。

詰まったら、いちばん詳しい人ではなく、
いちばん慣れていない人に話してみてください。

そして今は、**24時間つきあってくれる「よそ者」**がいます。
AIです。何度聞いても、嫌な顔をされません。

「愚痴」で終わらせるか、「エラー」として話すか

これは、ひとりで抱える話ではありません。

むしろ、**チームで共有したほうが、ずっと早い**。

休憩室で出る「もう、あの人がほんとに使ってくれないよね」。
そこで終われば、ただの愚痴です。明日も、同じ話をします。
でも、そのあとに一言だけ足せる人がいると、場が変わります。

— 「じゃあ、どうしたら解決できるかな？」 —

たったこれだけで、不満は**エラーの報告**に変わり、
その場は**修正の相談**に変わります。

責める相手を探す会議は、疲れます。
打つ手を探す会議は、なぜか元気が出ます。
同じ時間を使うなら、後者にしましょう。

属人化も、負担の偏りも、言った言わないも、
「誰が悪い」ではなく「どこを直すか」で話せたチームから、順に消えていきます。

課題解決が趣味になると最強

さらに、その先があります。

謎解きみたいで、ちょっと面白い。

ここまで来たら、もう止まりません。

課題が来るたびに、施設が1つずつ賢くなっていきます。

これは、さきほどのゲーミフィケーションと同じ仕組みです。

解ける手ごたえがあるから、面白くなる。

パズルは、難しすぎると投げ出したくなります。簡単すぎても、つまらない。

ちょうどよく解ける大きさのとき、人はいちばん夢中になります。

だから、いきなり大きな課題に挑まないこと。

解ける大きさに切って、1日1つ。

ここでも、答えは同じです。

成功する施設だけが知っている「3つの鉄則」

スローDX・AX 3つの原則

スローDX・AXには、3つの原則があります。

01 スローでいい・スローがいい

急がない。焦らない。ゆっくりだから全員がついてこられる。ゆっくりだから定着する。スローは弱さではなく、最強の戦略です。

02 「ここまで」を決める

「全部やろう」ではなく「ここまでやろう」を決める。今日はここまで。今週はここまで。ゴールを小さく区切ることで、達成感が生まれ、次の一歩が軽くなります。

03 最高の1日を設計する

理想の1日を描く。その1日を実現する仕組みをつくる。そして、その1日を繰り返す。最高の1日 × 365日 = 最高の1年。これがスローDX・AXの真髄です。

失敗する施設と成功する施設、たった1つの違い

やってはいけないDX・AX、うまくいくDX・AX

× 全替え → ○ 今あるものに、つなげる

「カイポケから別のシステムに全部乗り換えよう！」は危険です。今のやり方を変えなくていい。足りない部分だけ補う。合わなければすぐに元に戻せる。リスクゼロで始められます。

× 1日で全部覚える → ○ 1日ひとつだけ覚える

3時間の研修で一気に詰め込むと、月曜日にはほとんど忘れていきます。「今日は記録の入れ方だけ。5分で終わります」なら、集中できて、すぐに実践できて、「できた！」が残ります。

× 完全自動 → ○ AIが下書き、人が仕上げる

AIは万能ではありません。AIが**80%**の作業をやり、残りの**20%**を人が確認する。自分の目で見えるから安心。スタッフのスキルも維持できます。

× 100%を目指す → ○ まず、ひとつの場所にまとめる

全部の機能を完璧に使いこなす必要はありません。記録も、計画書も、報告書も、1つのアプリの中にある。必要な時に、必要な機能だけ使えばいい。

× 人に聞く → ○ AIに何度でも聞く

「これ、どうやるんでしたっけ?」「今ちょっと忙しくて……」。AIなら**24時間**いつでも聞ける。何度聞いても嫌な顔をされません。

第1章のまとめ

1 スローでいい

遠くへ行くために、ゆっくり行く

2 無理をしない

1日1つで十分

3 触れる回数がすべて

毎日ちょっとだけ触る。「触るほど好きになる」のは、根性ではなく人のつくり

4 小さな変化 × 毎日 = 劇的な進化

1日20分の短縮が、1ヶ月で50時間になる

5 「トラブル」ではなく「エラー」と呼ぶ

要因があるなら、必ず打つ手がある。愚痴で終わらせず、チームで「どうしたら解決できるかな」と話す

6 正しいやり方を選ぶ

全替えてではなく連携。AIには下書きまで任せ、人は確認と判断に集中する



第2章

介護DX・AXの正体

介護のDX・AXの正体を、先に明かします

この章で手に入るもの

この章は、「そもそも、何をデジタルにするのか」という話です。

先に、全部お見せします。

01 ゼロから考えなくていいとわかる

最初の一步は「真似すること」でいい。うまくいっている施設のやり方を借りるのが、いちばん速い。

02 ムリ・ムラ・ムダの正体がわかる

現場を苦しめている3つの敵は、突き詰めるとすべて「情報の問題」でした。

03 完璧をやめる理由がわかる

100点を捨てた施設のほうが伸びます。目指すのは「最適」です。

04 「見た目」が経営を変える理由

画面が見やすいだけで、経営が変わります。使いにくいものは、そもそも誰も使わないからです。

05 がんばった人が報われる仕組み

「あの人だけズルい」をなくす。人の気持ちではなく、仕組みで動かす方法。

06 見落としをゼロにする方法

次に何をすればいいかを、アプリのほうから教えてもらう。

07 DXとAXの違いがはっきりわかる

分かれ目は「誰が実行するか」。ここが、この本の核心です。

ここから、ひとつずつ詳しくお話します。

「ゼロから考えるな」が最強の戦略である理由

最初の一步は「真似すること」でいい

前の章で、スローDX・AXの3つの原則をお伝えしました。

では、具体的に何から始めればいいのか？

答えはシンプルです。

「真似する」こと。

実は、真似ることは非常に強力な学習方法であり、仕事の進め方として間違っていない。それどころか、最も効率的な方法です。

巨人の肩に乗る

科学者アイザック・ニュートンは、こんな言葉を残しています。

「私がより遠くを見ることができたのは、巨人の肩の上に立っていたからだ」

天才と呼ばれるニュートンでさえ、ゼロから考えたわけではありませんでした。

先人たちの知恵を学び、その上に自分のアイデアを積み重ねたのです。

すでにうまくいっている施設がある。

すでに成果を出しているツールがある。

その「巨人の肩」に乗ればいい。

真似をすることは、恥ずかしいことではありません。

むしろ、**最も賢い戦略**です。

大切なのは、「比較」ではなく「吸収」です。

他の施設と自分を比べるのではなく、良いところだけを自分たちに取り入れる。

これは、世界のトヨタが実践してきたことでもあります。トヨタが「カイゼン」で有名になったのは、他社の成功事例を徹底的に研究し、自社に取り入れたからです。ゼロから考えたわけではありません。

実は、トヨタのカイゼンとスローDX・AXの原則には、驚くほど共通点があります。

カイゼン → スローDX・AXの原則

- 「小さな改善を毎日続ける」 → 「1日1つでいい」
- 「現場が主役」 → 「誰でも使えないと意味がない」
- 「完璧を求めない。まず動く」 → 「最適を目指す」
- 「良い事例は徹底的に真似る」 → 「ゼロから考えるな」

「カイゼン」の知恵を、介護にも応用する

介護の日常の流れに、スローDX・AXを重ねる

「最高の1日」を設計し、それを繰り返す。

介護には、誰もが知っている基本の流れがあります。

介護過程の基本サイクル

- ① 要介護認定 → ② アセスメント → ③ ケアプラン作成 →
④ サービスの実施 → ⑤ モニタリング → ⑥ プランの改善

この流れは、どんな施設でも、どんな利用者さんでも同じです。
介護を学んだ人なら、誰もが最初に教わる基本中の基本。

スローDXとは、この「当たり前の流れ」を、1つずつデジタルに置き換えていくこと。

そしてAXとは、置き換えたその先で、下書きと実行までAIに任せていくこと。

どちらも、やることは1日1つ。それだけです。

介護プロセス × スローDX・AX

- **アセスメント** → 紙のメモをアプリへ。情報が一箇所に集まる
- **ケアプラン作成** → テンプレートとAIで、下書きが一瞬
- **サービスの実施** → 記録をスマホで入力。転記ゼロへ
- **モニタリング** → 記録が自動蓄積。変化が数字で見える
- **プランの改善** → データに基づく根拠ある見直しが可能

「全部を一度にやろう」としなくていい。

**まず1つ。
記録だけ、アプリに入れてみる。**

それだけで、次のステップが自然と見えてきます。

記録がデジタルになれば、月末の報告書が自動でできる。
報告書ができれば、モニタリングが楽になる。
モニタリングが楽になれば、プランの見直しに時間を使える。

1つの変化が、次の変化を呼ぶ。

これが「じわじわ成功する」スローDX・AXの力です。

この「順番」は、どんな施設でも同じです。

「真似する」は、恥ずかしいことではない。**最も賢い選択です。**

実はすべて「情報の問題」だった

ムリ・ムラ・ムダー 現場を苦しめる3つの敵

介護の現場には、3つの敵がいます。

- ・ **ムリ** — 無理な業務量、無理なスケジュール
- ・ **ムラ** — 人によってやり方が違う、品質がバラバラ
- ・ **ムダ** — 同じ情報を何度も転記する、探し物に時間がかかる

この3つは、実はすべて「情報の問題」です。

記録がアプリに集まれば、ムダな転記がなくなる。

テンプレートがあれば、ムラがなくなる。

全体が見える化されれば、ムリな計画を立てなくなる。

DX・AXの正体は、情報を味方につけること。

それだけです。

「100点」を捨てた施設が、なぜ伸びるのか

完璧ではなく「最適」を目指す

「最適化」は難しくありません。

「**今より、ちょっとだけ良くする**」

これだけです。

- ・記録に30分かかっていたなら、**20分**にする。
- ・報告書を手書きしていたなら、**自動で出す**。

「完璧」を目指すとは、永遠に始められません。

「最適」を目指すとは、今日から始められます。

100点じゃなくていい。

— 昨日の自分より1点だけ上を目指す。 —

それが最適化です。

DX・AXがうまくいく施設と、うまくいかない施設。

その違いは、技術力ではありません。

「**できた!**」を喜べるかどうか、です。

この小さな感動が、次の挑戦への燃料になります。

大切なのは、昨日の自分と比べること。

— 昨日より1つでも「できた」が増えていれば、

それは **立派な進化** です。 —

「見た目」だけで経営が変わる魔力

UIが9割 — 画面の見やすさが経営を変える

UIとは「ユーザーインターフェース」。

簡単に言えば、画面の見た目と使いやすさです。

どんなに優れた機能があっても、画面が見づらければ誰も使いません。

逆に、画面が直感的で気持ちよければ、自然と毎日使いたくなる。

スマートフォンが世界を変えたのは、「指で触るだけで動く」という、圧倒的に簡単なUIだったからです。

スマホを開いて、タップするだけ。

それで完結する。

これが「**UIが9割**」の意味です。

面白い発見があります。

良いUI（画面設計）の原則と、良い経営の原則は、ほとんど同じなのです。

- ・ **シンプルである** → 仕組みがシンプルである
- ・ **迷わない** → スタッフが迷わない
- ・ **無駄がない** → 無駄なコストがない
- ・ **フィードバックがある** → 評価制度がある
- ・ **一貫性がある** → 方針がブレない

良いアプリを使うことは、
良い経営を学ぶことでもあります。

「あの人だけズルい」をなくす方法

がんばった人が報われる仕組みのつくり方

新しいことに積極的な人は、どんどん使いこなす。

でも、消極的な人は、いつまでも紙のまま。

これを解決するのは、「叱る」ことではありません。

「報われる仕組み」をつくることです。

アプリで記録を入れると、月末の報告書が自動で完成する。

つまり、アプリを使った人は、月末が楽になる。

誰も強制していません。

でも、使った人だけが得をする。

— 人を変えるのではなく、仕組みを変える。 —

これがDX・AX成功の鉄則です。

「次に何すればいいか」をもう悩まなくていい

サジェスト&アラートで「見落とし」をゼロに

「何をすればいいかわからない」

これが、DX・AXが進まない最大の原因です。

サジェストとは、「次にやるべきこと」をアプリが提案してくれる機能。

「今日の記録がまだです → 記録を入力する」

「月末です → 報告書を作成しましょう」

自分で考える必要がない。アプリが教えてくれる。
迷わないから、続けられる。

そして介護の現場で最も怖いのは、「**見落とし**」です。

記録の入力忘れ、計画書の更新漏れ、期限切れの確認。
人間は忘れる生き物です。だから、機械に任せるのです。

- ・ **アラート** — 「この記録が未入力です」
- ・ **ナビ** — 「ここをタップしてください」「次はこの画面です」

この2つが揃えば、
「忘れる恐怖」から解放されます。

人がもっと輝く時代がやってくる

AI × 人 — 介護DX・AXの明るい未来

「AIに仕事を奪われる」

この不安を持つ方は多いと思います。

断言します。**介護の仕事はAIに奪われません。**

なぜなら、介護の本質は「人と人との関わり」だからです。

利用者さんの手を握る温かさ。「今日も元気ですね」という声かけ。

これらは、AIにはできません。

AIにできるのは、「人が本来の仕事に集中するための雑務」を代わりにやること。

介護DX・AXの未来は、「人がいらなくなる」未来ではありません。

「人がもっと輝く」未来です。

AIが雑務を引き受けてくれる時代。**そこで経営者に求められるのは、スタッフ一人ひとりの能力を「開花」させることではないでしょうか。**

記録や転記に追われていた時間が空く。その時間で、スタッフは本来の介護スキルを磨いたり、利用者さんとの関わりを深めたりできるようになる。

能力が開花すれば、スタッフ自身がやりがいを感じます。**仕事が楽しくなる。**成長を実感できる。

もう一つ、面白い変化が起きています。

働く側が、「AIを活用している会社かどうか」を選ぶ時代になりつつあるのです。

実際に、採用面接の場で求職者の方からこう聞かれたそうです。

「御社では、AIを業務に使っていますか？」

DX・AXは、利用者さんのためだけではない。

スタッフの採用と定着にも、直結する経営課題なのです。

DXとAXは、何が違うのか

「人が実行する」から「AIが実行する」へ

ここまで「介護DX・AXの正体は情報の問題だ」とお話ししてきました。では、そこに**AI**が加わると何が変わるのか。この節でひとつだけ整理させてください。

分かれ目は「誰が実行するか」

DXとAXの違いは、機能の多さではありません。

実行を、人が担っているか。AIが担っているか。ただ、それだけです。

× 人が入力する → ○ **AIが下書きする**

DXは入力欄を電子化する。AXは入力そのものを引き受ける

× 人が転記する → ○ **AIが転記する**

DXは転記先を画面にする。AXは転記という作業を無くす

× 人が書式を覚える → ○ **人は確認だけする**

DXは様式を配る。AXは仕上がりを出して、人は目を通す

同じ「記録を楽にする」でも、行き着く先がまったく違います。

訪問看護の記録で考えてみる

DXの段階

手書きの記録用紙を、タブレット入力に置き換える。

→ 字を書く手間は減る。でも「入力する」仕事は残る。

→ 移動の合間に、結局は文字を打っている。

AXの段階

訪問先での会話を、そのまま録る。AIが記録の下書きにする。

→ 「入力する」仕事が、そもそも発生しない。

→ 人がやるのは、**出てきた文章に目を通して、直すところだけ直す**こと。

前者は作業が軽くなる。後者は作業が**消える**。

この差が、そのまま「効果を実感できるかどうか」の差になります。

判断は、人が持ったままでいい

ここで、誤解のないようにお伝えしておきます。

AXは、AIに任せきることではありません。

AIが担うのは、下書きと実行です。

これでいい、と決めるのは、最後まで人です。

利用者さんのことをいちばん知っているのは、現場の皆さんです。
その判断を機械に譲る必要はまったくない。

譲るのは、判断の前にある**膨大な手作業**のほうです。

AXにも「スロー」が効く

ここで、多くの施設がつまずきます。

AIと聞いた瞬間、身構えてしまうのです。

「うちにはまだ早い」

「AIを扱える人がいない」

でも、思い出してください。第1章でお伝えした3つの原則は、AXでもそのまま使えます。

01 1 1日1つでいい

まずは「音声で記録する」を1回やってみる

02 2 全員で進む

得意な人だけが使う道具は、施設を変えない

03 3 最高の1日を設計する

AIに任せた分の時間を、何に使うかを決める

AIは、覚えることが増える道具ではありません。

覚えなくてよくなる道具です。

ボタンを押す。話す。目を通す。それだけ。

だから、ITが苦手な方ほど、AXの恩恵は大きくなります。

第2章のまとめ

- 1 真似することが最速の近道
- 2 ムリ・ムラ・ムダは「情報」で倒せる
- 3 完璧ではなく最適を
「できた！」を積み重ねる
- 4 仕組みで人を動かす
- 5 UIが9割
良いアプリは良い経営
- 6 サジェスト&アラートで見落としゼロ
- 7 AIは敵ではなく味方
人を「開花」させる道具



第3章

スローDX・AX で、何が変わるのか

まず、手に入るものを全部お見せします

この章で手に入るもの

この章は、「スローDX・AXを進めると、何が変わるのか」という話です。

先に、全部お見せします。

01 売上が上がる

取りこぼしていた加算を、確実に算定できるようになります。ケアに余裕が生まれれば、受け入れられる人数も増えます。

02 経費が下がる

紙代・印刷代、残業代、転記ミスによる損失。ある施設では月15万円、年間にして180万円が浮きました。

03 時間が返ってくる

記録・転記・報告書に取られていた時間が、「利用者さんに寄り添う時間」として戻ってきます。

04 スタッフが辞めなくなる

残業が減り、ストレスが減り、「できた！」が増える。働きやすい施設には、人が残ります。

05 ケアの質が上がる

記録に追われないぶん、ケアに集中できる。情報が共有されるので、担当が変わっても途切れません。

06 ご家族に選ばれる

具体的で、タイムリーな報告が届く。ご家族が安心できる施設は、選ばれる施設です。

これだけのことが起きます。

そして大事なのは、この6つがバラバラに起きるのではないということです。

経費が下がるから、給与を上げられる。給与が上がるから、人が辞めない。

人が辞めないから、ケアの質が上がる。質が上がるから、選ばれる。

— ひとつが良くなると、次が良くなる。 —

ここから、ひとつずつ詳しくお話します。

「いつ始めるか」だけの問題

経営とDX・AXは、もう切り離せない

「DXやAIはIT部門の仕事でしょ？」

もし、そう思っているなら、その考えを今日で捨ててください。

DX・AXは経営そのものです。

なぜなら、経営とは「限られた資源で、最大の成果を出すこと」だからです。

- ・限られたスタッフで、最高のケアを提供する。
- ・限られた時間で、すべての記録・報告を終わらせる。
- ・限られた予算で、施設を運営し続ける。

DX・AXは「やるかやらないか」ではなく、
「いつ始めるか」の問題です。

AIは道具です。包丁と同じです。

料理人が包丁を使いこなすように、介護のプロがAIを使いこなす。

大切なのは、AIに使われるのではなく、**AIを使う側に立つ**こと。

「AIが作った下書きを、
自分の目でチェックして仕上げる」。
この違いが、プロとしての価値を守ります。

取りこぼしていた加算、全部取り戻せます

売上が上がるロジック

① 記録の質が上がる → 加算が取れる

介護保険制度では、適切な記録があれば「加算」を算定できます。DX・AXで記録の質と量が安定すれば、取りこぼしていた加算を確実に算定できます。

② 業務効率化 → 受け入れ人数を増やせる

ケアの余裕が生まれれば、新しい利用者さんを受け入れられる。

③ スタッフの定着率向上 → 採用コスト削減

「この施設、働きやすい」と思ってもらえれば、スタッフが辞めない。

— DX・AXは「コスト」ではなく「投資」です。 —

年間180万円が浮く？ 経費削減のカラクリ

経費が下がるロジック

① 紙代・印刷代の削減

記録を紙で管理している施設では、年間で何万枚もの紙を使っています。アプリに移行すれば、この費用がゼロになります。

② 残業代の削減

月末の報告書作成、カイポケへの転記。これらの「残業の原因」がなくなれば、残業代が大幅に減ります。

③ ミスによるコスト削減

手書きの転記ミス、記録の漏れ、請求の誤り。

ある施設では、導入後に月あたり約15万円のコスト削減を実現しました。年間にすると**180万円**です。

目の前に人に、もっと寄り添える時間をつくる

本来やりたいことに、もっと時間を使える

あなたは今も、こう思っているはずです。

「利用者さんの役に立ちたい」

「お年寄りの笑顔が見たい」

「人の人生に寄り添いたい」

その想いは、最初から変わっていません。
見失ってもいいし、忘れてもいい。

ただ、記録、転記、報告書、書類整理……。
「もっとこうしたい」に使える時間が、どうしても足りない。

**DX・AXの最大の効果は、
「本来やりたいことに、
もっと時間を使えるようになること」です。**

DX・AXは時間を奪うものではない。**あなたの想いに、時間を返してくれるものです。**

「辞めたい」が「ここで働きたい」に変わる瞬間

スタッフも利用者も家族も、全員が幸せになる

スタッフが笑顔で働いている施設は、いい施設です。

スタッフが笑顔 → 利用者さんも安心 → ケアの質が上がる
→ 評判が良くなる → 経営が安定する

この好循環の起点は、「**スタッフの笑顔**」です。

- ・ 残業が減る → 家族との時間が増える
- ・ 面倒な転記がなくなる → ストレスが減る
- ・ 「できた！」が増える → 成長の実感が得られる

— スタッフが幸せなら、施設は必ずうまくいく。 —

スタッフが記録作業に追われなくなれば、その分ケアに集中できます。

「もう少し話を聞きたかったのに、記録があるから……」がなくなります。

情報がリアルタイムで共有されれば、担当が変わっても途切れないケアが実現します。

そしてご家族が最も不安に思っていること。

「うちの親は、ちゃんとケアしてもらえているのだろうか」

DX・AXで記録が整えば、家族への報告も充実します。

具体的で、タイムリーな情報。これが、ご家族の安心を生みます。

— 家族が安心できる施設は、選ばれる施設です。 —

偶然生まれた「マナポーズ」に隠された秘密

売上は上げて、経費は下げる



神マナのロゴには、ポーズがあります。

右手を上、左手を下に。

スーパーマンのような、力強いポーズです。

このポーズ、実は偶然から生まれた「発見」がありました。

ある日、介護施設の経営者の方とお話していた時のこと。
その方がポーズを見て、こう言ったのです。

「右手が上で、左手が下。売上は上げて、経費は下げる。まさにマナポーズだね！」

思わず笑いました。まったく意図していなかったからです。

でも、考えてみると、本当にその通りなのです。

右手を上 — 売上を上げる。

記録の質が上がり、加算を取りこぼさない。

左手を下 — 経費を下げる。

紙代・残業代の削減。ミスによるコストの削減。

そしてこのポーズは、スローDX・AXの原則とも重なります。

良い状態を設計し、それを繰り返す。

売上が上がり、経費が下がる。

その「良い状態」を1日1日、積み重ねていく。

介護経営をサステナブル（持続可能）に維持するために、
まさに**スローDX・AXそのものを体現したポーズ**だったのです。

今この時代に介護をしている、という幸運

しかるべき時に、しかるべき場所にいる

今この時代に介護をしているあなたは、とても恵まれています。

- ・ AIがある。
- ・ スマートフォンがある。
- ・ クラウドがある。
- ・ データを一瞬で共有できる。

10年前なら、これだけのツールを揃えるのに莫大なコストが必要でした。

でも今は、**スマホ1台で始められる。**

あなたは今、**しかるべき時に、しかるべき場所にいます。**

この好機を、活かしましょう。

第1章でお伝えした3つの原則——**スローでいい、「～まで」を決める、最高の1日を設計する。**この時代だからこそ、この原則が最大の武器になります。

継続は力なり。

焦って一気に変えようとする施設は、たいてい途中で挫折します。
前の章で学んだ「失敗する施設」のようになっていませんか？

- ・ 全替えしようとしていませんか？
- ・ 1日で全部覚えようとしていませんか？
- ・ 100%を目指していませんか？

どれか1つでも当てはまるなら、一度立ち止まって深呼吸してください。

焦らないこと。挫折しないこと。

それだけを意識すれば、あとはスローDX・AXの原則が導いてくれます。

— この幸運な時代に、スローに、着実に。 —

それが最も遠くまで行ける方法です。

「効果が出る前にやめた」が最大の失敗

すべての効果を実感するまで、続ける

最後に、最も大切なことをお伝えします。

**スローDX・AXの成功とは、
「続けること」そのものです。**

1日で劇的な変化は起きません。

1ヶ月

「あれ？楽になったかも」と感じ始める

3ヶ月

「もう前のやり方には戻れない」と思う

半年

施設全体が変わっている

多くの施設がDX・AXに失敗する理由は、「効果が出る前にやめてしまう」こと。

だからこそ、「スロー」なのです。

無理なペースで始めると、息切れしてやめてしまう。

でも、スローなら続けられる。

ツールは揃っている。時代は味方している。

あとは、ゆっくり続けるだけ。

— 成功とは、続けた人だけが見る景色です。 —

第3章のまとめ

- 1 経営とDX・AXは一体**
AIは道具、使いこなす側に立つ
- 2 売上が上がる**
加算の取りこぼし防止
- 3 経費が下がる**
紙代・残業代・ミスの削減
- 4 本来の仕事に戻る**
DX・AXは時間を返してくれるもの
- 5 全員が幸せになる**
スタッフ・利用者・家族の好循環
- 6 この時代の幸運を活かす**
- 7 続けた人が勝つ**



第4章

カイポケ連携AI「神マナ」とは

神マナが何を解決するのか、先に言います

この章で手に入るもの

この章は、「神マナとは何なのか」という話です。

先に、全部お見せします。

01 カイポケをやめなくていい

全替えは、いちばんリスクの高い選択です。今あるものを活かして、足りないところだけ補います。

02 二重入力が消える

ボタン1つで、カイポケに自動転記。「同じことを2回入力する」がなくなります。

03 1アプリでどこまでできるか

記録も、計画書も、報告書も、勤怠も。全機能マップでお見せします。

04 続かない原因と、その解き方

道具が増えるほど続きません。スマホ1台に集まるから、続きます。

05 使うほど施設が賢くなる

毎日タップするだけでデータが貯まり、施設全体の判断が良くなっていきます。

ここから、ひとつずつ詳しくお話します。

こんなお悩み、ありませんか？

現場を悩ませる、4つの「あるある」

介護の現場には、こんな"あるある"がありませんか。

計画作成に時間がかかる

利用者の健康状態、生活状況、ニーズ、希望などの情報を収集し、適切なプランを作成するには、時間と専門知識が必要です。

長時間の事務作業

業務や会議への参加が多く、事務作業に十分な時間を確保できず、毎月残業続きになりがちです。

議事録作成に手間がかかる

担当者会議など会議中に議論された内容や決定事項が不明瞭であったり、抜け漏れがあったり。議事録の情報が不足しがちです。

転記問題に悩まされている

AIなど何かのソフトを使って作った記録を、別のソフト（カイポケなど）にもう一度入力（転記）している。

ひとつでも当てはまったなら——大丈夫です。

これらはすべて、**神マナが解決できる悩み**です。

カイポケを「やめなくていい」という発想

なぜ、カイポケ連携AIなのか

介護施設の多くが「カイポケ」を使っています。

請求、利用者管理、計画書……。カイポケは介護事業の基盤です。

でも、現場からこんな声をよく聞きます。

「カイポケだけでは、現場の業務が回らない」

「記録を別の紙に書いて、後からカイポケに転記している」

入力は大変だけどかといって、カイポケをやめるわけにはいかない。

ならば、カイポケと「つなげる」アプリがあればいい。

これが、神マナの発想の原点です。

カイポケを置き換えるのではない。

カイポケの横に、もう1つの武器を持つ。

カイポケは介護事業の**インフラストラクチャー（社会基盤）**です。

電気や水道のように、なくてはならない存在。

そのインフラの上に、神マナを「アドオン（追加）」する。

既存ソフトはそのまま。

作業時間を1/10に。

これが、宇宙一カンタンに進化・成長する介護施設をつくる方法です。

ボタン1つで、カイポケに自動転記

「二重入力」に終止符を打つRPA

「また同じデータを入力するのか……」この「二重入力」問題は、介護業界の最大のボトルネックでした。

神マナは、この問題にRPA（自動転記）で終止符を打ちました。

01 話す・撮る

会議やモニタリングは「録音するだけ」。保険証や主治医意見書は「写真を撮るだけ」。メモを取る手間がないので、目の前の利用者さんに集中できます。

02 AIが"下書き"をつくる

録音や写真から、記録・アセスメントの下書きを自動で作成。ゼロから書くより、ぐっと速くなります（内容は確認・修正できます）。

03 カイポケに、そのまま反映

ボタンひとつで自動転記。コピーして貼り直す必要はありません。＝二度入力（転記）がゼロ。

ユーザーがやることは、**ボタンを1回押すだけ**。
あとはRPA（ロボット）が全自動で処理します。

**カイポケに、そのまま。
"転記"が、ゼロになる。**

「カイポケ連携AI」の本当の意味

唯一のAIパートナー

神マナが「カイポケ連携AI」と名乗る理由が、ここに 있습니다。

単にカイポケユーザー向けのAIというだけではありません。

カイポケとの連携を前提に設計された、唯一のAIパートナーです。

AIで作ったデータを、最終的にカイポケに届けるところまで、ワンス
トップで完結する。

この一気通貫の体験が、神マナだけにしかない価値です。

他のAIツールがどんなに優れた文章を生成しても、最後のカイポケ入
力が手作業なら——それは半分しか解決していません。

神マナは、100%を解決します。

そしてもうひとつ、大切なことがあります。

カイポケは、エス・エム・エスさんという大きな会社が運営していま
す。

全国の介護事業所が信頼するインフラです。

その信頼あるインフラと連携できていること。

これは、神マナの大きな強みです。

私たちは、RPA連携を開始してからお客様が急激に増えました。

「カイポケはやめなくていいんですね？」

「今のソフトそのまま、作業時間が**1/10**になるんです
か？」

「それなら、試してみたい」

この声が、すべてを物語っています。

ITソフトの複雑な操作を覚える必要もほぼなくなります。
新人スタッフが入社しても、神マナの使い方さえ覚えれば、カイポケへの入力もRPAが代行してくれる。

神マナ と カイポケ
これが、“宇宙一カンタンに、
成長進化する介護施設をつくる”
私たちの答えです。

この1アプリで、ここまでできる

神マナにできること — 全機能マップ

神マナは、介護のあらゆる業務をカバーする「オールインワン」アプリです。

■ **居宅マナ** — 書類が一瞬。ケアプラン・報告書・サマリーをAIが作成

■ **訪看マナ** — 声で記録、報告書は自動生成

■ **訪問マナ** — 声で残して、転記ゼロ

■ **記録マナ** — 指一本で記録完了。音声・OCR対応

■ **勤怠マナ** — 月末集計0秒。QR打刻で完了

■ **通所マナ** — デイの記録も計画書もカンタンに

■ **福祉用具マナ** — 書類管理をデジタル化、忘れ防止アラート

+ どのマナでも共通で使える便利機能

■ **名刺・連絡先の管理** — 関係先の名刺・連絡先を一元管理

■ **ボイスメモ** — 会話をその場でワンタップ録音

■ **書類管理** — 書類は写真で撮ってクラウド保存

■ **書庫** — 音声も書類もまとめてクラウド保存・検索

■ **複数事業所の切り替え** — 複数拠点も、ログインし直さず行き来

■ **宛先別サマリー** — 主治医・家族・ケアマネ、読む人に合わせて出し分け

+ 困ったときに、ひとりにしない仕組み

■ **マナちゃん相談・完全ガイド** — 使い方はアプリの中で聞ける

■ **画面共有サポート** — 画面を見せながら相談。相手が画面に印をつ
けられる

■ **マナドライブ** — パソコンでも同じデータを開いて整えられる

これらすべてがカイポケと連携しています。二重入力、もう必要ありません。

DX・AXが続かない最大の原因

スマホ1台に集まるから、続けられる

「パソコンを開いて、システムにログインして……」
この手間が、DX・AXが定着しない最大の原因です。

神マナは、スマホアプリです。
ポケットから取り出して、タップするだけ。
ケアの直後に、その場で記録を入力できる。

そして、スマホアプリだからこそのメリット。
いつでも、どこでも使える。

場所を選ばない。時間を選ばない。
だから、触れる回数が増える。
触れる回数が増えるから、自然と使いこなせるようになる。
さらに、ここで大切なポイントがあります。

ゲーム感覚で、楽しくなる。

ゲーミフィケーションという考え方をご存じですか？

ゲームの要素——達成感・進捗の見える化・小さなご褒美——を、仕事に取り入れること。

神マナには、この仕組みが組み込まれています。

記録を入力すると、タスクが「完了」になる。
計画書が仕上がると、次のステップが提案される。
毎日の小さな「できた！」が積み重なっていく。

「やらされている」ではなく、「やりたくなる」。

この違いが、DX・AXの定着率を劇的に変えます。

そして、ゲーミフィケーションがもたらす最大の効果。

それは、**スタッフ一人ひとりの能力が「開花」すること**です。

楽しみながら触れているうちに、情報リテラシーが自然と身につく。

「できた！」の感動が、次のチャレンジへの意欲を生む。

気づいた時には、スタッフ全員がデジタルツールを使いこなせるようになっている。

— 人材育成の最強の方法は、 —

「楽しませること」です。

毎日タップするだけで、施設が「賢く」なる

触れるたびに、施設が進化する

神マナの面白いところは、**使えば使うほど、施設全体が進化すること**です。

記録が蓄積されれば、利用者さんの傾向が見えてくる。

計画書の質が上がれば、ケアの質も上がる。

データが揃えば、経営判断の精度が上がる。

1人のスタッフが1つの記録を入力する。

それだけの小さなアクションが、施設全体の「データベース」を育てていく。

毎日、少しずつ、施設が賢くなっていく。

これが「スローDX・AX」の真骨頂です。

神マナは、あなたの施設の「進化の記録」です。

第4章のまとめ

1 カイポケを活かす

全替えではなく連携

2 RPAで二重入力ゼロ

ボタン1つでカイポケに自動転記

3 カイポケ連携AIの価値

100%の業務完結

4 オールインワン

すべて1つに

5 スマホだから続く

触れる回数が自然と増える

6 ゲーミフィケーション

楽しいから続く、続くから能力が開花する

7 使うほど進化する

データが蓄積され、施設全体が賢くなる



第 5 章

神マナ完全ガイド

7つの神機能で、何ができるようになるか

この章で手に入るもの

この章は、神マナの全機能ガイドです。

先に、全部お見せします。

01 居宅マナ

ケアプランも担当者会議の記録も、AIが下書き。書類が一瞬で形になります。

02 訪看マナ

声で記録するだけ。訪問看護記録書も報告書も、自動で仕上がります。

03 訪問マナ

移動しながら声で残せば、転記はゼロ。事務所に戻ってからの作業がなくなります。

04 記録マナ

指一本で記録が終わる。紙に書いてから入力し直す、を卒業できます。

05 勤怠マナ

月末の集計が0秒。QRコードにかざすだけで、打刻が終わります。

06 通所マナ

デイの記録も、計画書も。毎日の「忙しい」が軽くなります。

07 福祉用具マナ

書類の山をデジタルに。期限が近づけば、アラートが教えてくれます。

さらに、どのマナでも使える共通の便利機能、迷ったときに聞ける「マナちゃん」、画面を見せながら相談できる仕組み、パソコンで使える「マナドライブ」までご紹介します。

ここから、ひとつずつ詳しくお話しします。

7つの神機能、すべて見せます

入力なし、転記なし、集計なし——それが、劇的な変化を生む鍵

ここまでで、神マナが「カイポケに、そのまま連携できるAIアプリ」だということは、伝わったと思います。

ここからは、もっと具体的に、どんなことができるのかをご紹介します。

神マナでは、入力をサジェストで減らし、転記も集計も自動。やることは、たったの3ステップです。

- 1 話す・撮る
- 2 AIが“下書き”をつくる
- 3 カイポケに自動転記で反映

この「誰でもできる簡単さ」で、たとえ1秒でも“作業のための時間”を削る。神マナは、そこを徹底しています。

だから、スローでも、劇的な変化が起こせる。

神マナは、介護現場でよく使う**7つの事業種別**に、そのまま対応します。

イメージは——**1つのアプリの中に、7つのアプリ。**

それぞれが独立したプロダクトとしての完成度を保ちながら、すべてがカイポケ連携で、シームレスに連動します。

**すべてが1つのアプリ。
すべてがカイポケ連携。**

7つの神機能、すべて見せます

さあ、ご覧ください。

居宅マナ

書類が一瞬。ケアプランも、担会も、AIにお任せ

■ 居宅マナ —— ケアプランAI

ケアマネジャーの仕事は、書類との闘いです。

アセスメント情報の整理、課題の抽出、目標設定、サービス内容の組み立て……。

1件のケアプラン作成に、何時間もかかっていますか？

居宅マナは、その「書類の山」を一瞬に変えます。

紙のアセスメントをOCRで自動読み取り——転記の手間ゼロ
AIがアセスメント情報から課題を抽出し、ケアプラン第1
表～第3表を自動作成
担当者会議、支援経過、モニタリング——音声から自動作成

計画が一瞬で出来上がる。担会要約が一瞬で出来上がる。サマリーが一瞬で出来上がる。

手入力はほぼゼロ。

紙からの転記はOCRが解決。

会議の記録は音声AIが担当。

AIが下書きし、あなたが仕上げる。

空いた時間を利用者さんとの面談やモニタリングに。

根拠のあるケアプランが、驚くほど短時間で完成します。

そして、作成したプランは**カイボケへそのまま自動転記**。

訪看マナ

声で記録、報告書は自動。看護師を書類から解放する

■ 訪看マナ —— 訪問看護AI

看護師の本来の仕事は、利用者さんのケアです。

でも現実には、書類作業に追われている。

訪看マナは、その書類作業をAIが引き受けます。

看護記録を声で入力——話すだけで記録が完成
計画書・報告書をAIが自動生成
受診サマリーもワンタップで作成
アラート機能で記録の抜け漏れを防止

書類負担を減らし、看護の質を上げる。

訪問先でもスマホひとつで、必要な記録がその場で完結。
事務所に帰ってから書き直す。そんな二度手間は、もう必要ありません。

“事務所に帰ってからの書き直しが毎日**1時間**あった。今はその場で終わるので、定時に帰れるようになりました。

— 訪問看護師

記録が蓄積されるほど、利用者さんの変化が見える化される。

データの蓄積が、根拠のあるケアを可能にする。

訪問マナ

移動→ケア→記録。声で残して、転記ゼロ

■ 訪問マナ —— 訪問介護AI

訪問介護のヘルパーさん。

利用者さんのお宅を回りながら、その合間に記録を書く。

移動 → ケア → 記録 → 移動 → ケア → 記録……。

この繰り返しの中で、記録がどうしても後回しになりがちです。

訪問マナは、**声で記録が残せる**アプリです。

実施記録やサービス提供記録をタップまたは音声で入力

話すだけで記録が完成——移動中でもOK

AIがサジェストで選択をカンタンに

報告書はAIが自動で下書き

事務所に戻ってから紙の記録を転記する——その作業がゼロになります。

“移動中に声で記録を残せるから、1日の訪問件数を**1件**増やせた。

— 訪問介護スタッフ

ヘルパーさんの「めんどくさい」を徹底的に減らす。

それが訪問マナの使命です。

記録マナ

指一本で、記録が終わる。紙に書いてから入力し直す、は卒業

■ 記録マナ —— かんたん実施記録

バイタル、食事、排泄、入浴、水分摂取——。
毎日の記録、大変ですね。

記録マナは、**本当にかんたん**な記録ツールです。

ワンタップで入力。
指一本で、記録が終わる。

バイタル・食事・排泄・入浴をタップで記録

音声入力対応——声で記録が完成

OCR機能——保険証や紹介状をカメラ撮影で自動入力

AIサジェストで選択がラクラク

アラートで記録の漏れを防止

「紙に書いてから入力し直す」という作業が不要になります。
現場のスタッフさんが「これなら使える！」と言ってくれる。
それが記録マナの一番の自慢です。

第6章で紹介する導入施設「いこい」さんも、**排泄記録から始めて、
20を超える記録を電子化**しました。

データが蓄積されるほど、利用者さんの体調の変化やケアの傾向が見えてくる。

記録は「面倒な義務」ではなく、ケアの質を上げる**宝物**になります。

勤怠マナ

月末の集計、0秒。QRコードで、打刻完了

■ 勤怠マナ —— かんたん勤怠管理

「タイムカード、押し忘れた……」

「月末の勤怠集計、毎回3日かかる……」

勤怠マナは、QRコードをかざすだけで出退勤を記録します。

QRコードでワンタッチ打刻

事業所でも訪問先でもスマホ1つで完了

リアルタイムでスタッフの勤怠状況を確認

月末の勤怠集計を自動化——集計作業0秒

28日サイクルのシフト自動生成にも対応

「月末地獄」が消える。集計の手間なし。

さらに、勤怠マナで打刻した訪問時間は、サービス提供記録と自動連動。

「記録と勤怠が合わない」というトラブルもなくなります。

“月末の勤怠集計に**3日**かかっていたのが、ボタン1つで終わる。
最初は信じられなかった。

— 管理者

集計0秒が勤怠マナで実現できます

通所マナ

デイの記録も、計画書も。毎日の「忙しい」を楽にする

■ 通所マナ —— 通所介護AI

デイサービスの現場は、毎日が忙しい。
利用者さんの送迎、入浴介助、レクリエーション、食事介助——。
その合間に、日々の記録や計画書の作成もしなければならない。
通所マナは、通所介護に特化した記録・管理ツールです。

日々の記録をかたんたん入力——サジェストで選ぶだけ
計画書・報告書の作成をAIがサポート
利用者さんの様子を写真で記録
データの蓄積でケアの質が向上

通所介護の「記録の負担」を軽くして、スタッフが利用者さんと向き合う時間を増やします。

“記録の時間が減った分、レクリエーションの準備に時間を使えるようになった。利用者さんの笑顔が増えました。”

ー デイサービススタッフ

楽しくなる。楽になる。だから続く。

福祉用具マナ

書類に埋もれる日々を、デジタルで整理する

福祉用具マナ —— 計画書・契約管理

福祉用具貸与の事業所では、利用者さんごとの計画書や契約書の管理が欠かせません。

福祉用具マナは、その書類業務を効率化します。

福祉用具サービス計画書の作成

契約書の管理・保管

利用者ごとの貸与状況を一覧管理

アラートで更新時期を通知——忘れ防止

紙の書類に埋もれる日々から、デジタルで整理された管理へ。
必要な書類がすぐに見つかる——それだけで、業務は驚くほど楽になります。

探す手間なし。忘れる心配なし。

“更新時期のアラートのおかげで、期限切れに気づかなかったという事故が**ゼロ**になりました。”

— 福祉用具スタッフ

どのマナでも使える、共通の便利機能

サービスの垣根を越えて、毎日の業務をもっとラクに

7つのマナに加えて、神マナには——どのサービスでも共通で使える「便利機能」が揃っています。

■ 名刺・連絡先の管理

関係事業所や担当者の名刺・連絡先を一元管理。電話・FAX・住所を、必要なときにすぐ呼び出せます。

■ ボイスメモ

会議や訪問先での会話を、その場でワンタップ録音。あとから聞き返したり、記録づくりに活用できます。

■ 書類管理

保険証・契約書・各種書類は、写真で撮るだけ。そのままクラウドに保存できます。紙のファイリングや、探す手間から解放されます。

■ 書庫

音声も書類（写真）も、すべてまとめてクラウドで保存・管理。あとからいつでも検索して、必要な記録をすぐに取り出せます。

■ 複数事業所の切り替え

1つの法人で居宅と訪問、複数の拠点——という場合も、ログインし直す必要はありません。アプリの中で事業所を切り替えられます。

■ 宛先別サマリー

同じ1か月の記録から、主治医あて・ご家族あて・ケアマネあてなど、**読む人に合わせた書き方**でまとめを作れます。

医師には結論から簡潔に。ご家族にはやさしい言葉で。**同じことを何度も書き直す必要はありません。**

どの機能も、すべてのマナと同じアプリの中。アプリを切り替える必要はありません。

わからなくなったら、マナちゃんに聞けばいい

アプリの中に、完全ガイドと相談相手があります

新しい道具が続かない理由の多くは、機能ではありません。

「使い方がわからなくなったとき、聞く相手がいない」ことです。

説明書はどこかへ行ってしまふ。

サポートに電話するほどでもない。

まわりに詳しい人がいない。

そうして、そっと使わなくなる。私たちは、それを何度も見てきました。

だから神マナには、**アプリの中**に答えを置きました。

■ 完全ガイド

使い方を、画面ごとに順を追って読めます。アプリを離れる必要はありません。

■ マナちゃん相談

画面の下から呼び出せる相談チャットです。使い方は2通り。

かんたん

選択肢から選ぶだけ。その場でガイドの該当ページへ案内します

AIに聞く

自由に書いて質問できます。「担当者会議の記録ってどこから？」
のような聞き方でかまいません

ここには、ひとつ工夫があります。

マナちゃんは、わからないことを「わかったふり」で答えません。

ガイドに書かれていないことを聞かれたら、推測で答えるのではなく、

「分かりかねます」と正直に伝えて、次にご紹介する**画面共有サポート**をご案内します。

AIに聞いたら、それらしい嘘が返ってきた——という経験をお持ちの方も多いと思います。

現場で使う道具でそれをやると、事故になります。

だからマナちゃんは、答えられる範囲をあらかじめ決めてあります。

マナちゃん相談は、まず**居宅マナ**から始めています。

他のサービスは、順にご用意していきます。ここでも、スローに。

画面を見せながら、相談できる

「ここです」を、言葉で説明しなくていい

電話サポートの、いちばんもどかしい瞬間をご存知でしょうか。

「左上のボタンを押してください」

「……左上、ですか？」

「はい、青いアイコンの……」

「青いのが2つあるんですが」

お互い一生懸命なのに、話が噛み合わない。

画面が見えていないからです。

神マナには、**画面共有サポート**が入っています。

■ 話しながら、同じ画面を見る

音声通話をつなぎ、あなたの画面をそのまま相手に見せられます。

■ 相手が、画面に印をつけられる

見ている側がポインターや線を書き込むと、それがあなたの画面に重なって表示されます。

「ここです」が、言葉ではなく**指さし**で伝わります。

相談できる相手は2通りです。

× 運営に聞く → ○ 介護のマナ サポート

操作でつまずいたとき、開発した私たちが直接お答えします

× 事業所の中で聞く → ○ 事業所のメンバー

先に慣れたスタッフが、離れた場所から新しい方を助けられます

見せていいものだけを、見せる

画面を共有すると聞くと、不安に思われるかもしれません。設計はこうしています。

映るのは、神マナの画面だけ。

他のアプリも、届いた通知も、映りません。

共有を始めるのは、いつもあなた自身。

あなたがボタンを押すまで、誰にも画面は見えません。

録画はしません。

その場で見て、その場で終わります。

一度に、みんなで

新しく導入した施設では、スタッフ全員に同じ説明をすることになります。

そのために**オンボード配信**も用意しました。

発表者ひとりの画面を、事業所のスタッフ全員が同時に見られます。

開催すると、対象の事業所の端末に通知が届きます。

集まらなくていい。移動もいらない。手が空いた人から参加できます。

導入研修のために全員のシフトを合わせる——という、あの調整が要らなくなります。

パソコンの大きな画面でも

マナドライブー 同じデータを、別の窓口から

現場ではスマホが速い。

でも、月末にまとめて整えるときや、じっくり書類を見直すときは、大きな画面のほうが楽です。

そこで**マナドライブ**を用意しました。パソコンのブラウザから開く、もうひとつの窓口です。

● 利用者さんごとのフォルダ

サービスごとにフォルダが分かれ、その中に書類が並びます。パソコンのファイル操作と同じ感覚です。

■ 表計算のように編集できる

アセスメント・第1表・第2表・第3表を、表の形で直せます。

■ 直したら、アプリにも反映される

マナドライブとアプリは、同じデータを見えています。

どちらで直しても、もう一方にそのまま反映されます。**二重管理はありません。**

■ 自治体の様式で書き出せる

たとえば沖縄県の共通アセスメント様式は、公式のExcelそのままの体裁で出力できます。

提出用に作り直す手間がなくなります。

スマホは「その場で残す」ため。

パソコンは「まとめて整える」ため。

同じデータを、場面に合わせて使い分けられます。

7つの機能が連動する「神」の理由

すべてが1つだから、すべてがつながる

ここまで紹介してきた7つの機能。

バラバラのツールではありません。

すべてが1つのアプリの中で連動しています。

居宅マナで作成したケアプランの情報が、記録マナに自動反映

訪問マナ・訪看マナの訪問記録が、モニタリング資料として活用可能

勤怠マナで打刻した訪問時間が、サービス提供記録と連動
すべてのデータを、カイボケにRPA自動転記

1つのアプリで完結するからこそ、データの転記ミスやシステム間の不整合が起きません。

スタッフ全員が同じアプリを使うことで、情報共有もスムーズに。

**これが、
「神」マナと呼ばれる理由です。**

介護の現場で生まれ、現場と一緒に育ち続けるアプリ。
神マナは、あなたの施設の「進化の相棒」です。

第5章 神マナ完全ガイドのまとめ

1

居宅マナ

書類が一瞬。ケアプラン・報告書・サマリーをAIが作成

2

訪看マナ

声で記録、報告書は自動生成

3

訪問マナ

声で残して、転記ゼロ

4

記録マナ

指一本で記録完了。音声・OCR対応

5

勤怠マナ

月末集計0秒。QR打刻で完了

6

通所マナ

デイの記録も計画書もカンタンに

7

福祉用具マナ

書類管理をデジタル化、忘れ防止アラート

すべてが1つ。すべてがカイボケ連携。

**あらゆる手間を徹底排除。
だから、スローでも劇的に変わる。**



第 6 章

導入した施設の声

第6章のはじめに

スローDX・AXは、本当に現場で役に立っているのか

スローDX・AXは、本当に現場で役に立っているのか。

その答えは、私が語るのではなく、現場の方々の言葉の中にあるはずです。

ここからは、実際に神マナを導入してくださった施設のみなさんから届いた声、「現場が語る、本当のスローDX・AX。」をありのままにお届けします。

先に、全部お見せします。

01 書類の山から解放された話

ケアプランセンター愛ねっと（大阪府／居宅介護支援）

02 現場が選び、社長が即決した話

株式会社ル・シエル／ケアプランそら（滋賀県・京都府）

03 立ち上げ期の事業所が伸びた話

ケアプランパーネル（沖縄県・宜野湾市／居宅介護支援）

04 「眠れなかった夜」から解放された話

居宅介護支援事業所 島の風（沖縄県・うるま市）

05 排泄記録から好循環が始まった話

有限会社陽気（沖縄県・南城市／有料老人ホーム他）

06 打ち込めない現場が、声で記録した話

訪問介護ようき（沖縄県・南城市）

07 手入力からAI統合×SOAPへ移った話

訪問看護ようき（沖縄県・南城市）

08 「思い出探しの旅」を降りた話

オープン あい ケアプランセンター（静岡県・浜松市）

うまくいった話だけではありません。
迷ったところ、つまづいたところも、そのまま載せています。
ここから、ひとつずつ詳しくお話します。

ケアプランセンター愛ねっと（大阪府／居宅介護支援事業所）

「書類の山」からの解放と、本来のケアマネジメントへの回帰

全国の介護支援専門員を束ねる立場の成田氏が、ご自身の事業所「ケアプランセンター愛ねっと」で神マナを導入し、その効果を率直に語ってくださいました。

ケアプランセンター愛ねっと 代表

全国介護支援専門員協会 代表

成田 聡

毎月、月末月初に訪れる「書類の山」との闘いに、限界を感じていました。

私たちの事業所では、長年ケアマネジャーの業務過多、特に「書類作成に費やす時間の長さ」が大きな課題となっていました。

毎月の訪問（モニタリング）自体は、利用者さまやご家族との大切なコミュニケーションの時間であり、非常にやりがいを感じる瞬間です。しかし、事務所に戻ってからは、

- ・文字起こし
- ・要約
- ・モニタリングシートへの記入
- ・支援経過の入力

という一連の事務作業が、どれほどステップを踏んでも減ることはありませんでした。

記憶が鮮明なうちに記録したいと思っても、次の訪問予定に追われ、結局は夕方や週末にまとめて思い出しながらパソコンに向かう日々。気がつけば「書類を作成するために仕事をしているのではないか」と錯覚するほど、精神的にも肉体的にも追い詰められていました。

そんな時に会ったのが、AIを活用したケアマネジメント支援アプリ「神マナ」でした。

やることは「訪問前にボタンを押すだけ」。その簡単な操作性に驚きました。

導入初期、スタッフからは「また新しいアプリを覚えるのか」「本当に実務で使えるのか」といった不安の声もありました。

しかし、実際に使ってみて全員がその簡単な操作性に驚愕しました。

ケアマネジャーがやるべきことは：

1. 訪問前にスマホでアプリを起動
2. 「モニタリング開始」のボタンを押して対象の利用者さまを選択
3. あとは「録音」を押すだけ

利用者さまとの普段通りの会話をそのまま録音し、面談が終わったら「録音終了」をタップする。**操作は本当にこれだけ**です。

極端な話、利用者さまの自宅を出て、車に戻ってきてエンジンをかけた頃には、すでにAIによる文字起こしと要約が信じられないスピードで終了しているのです。

モニタリング文章の自動生成から、カイボケへの自動転記まで、シームレスに完結します。

驚くべきは、単なる音声の文字起こしにとどまらない点です。

会話の内容から、ケアプランに設定されている「短期目標」に準じた適切なモニタリング文章を、AIが自動で生成してくれます。さらに、モニタリングシートだけでなく、同時に「支援経過」の作成まで完了してしまうのです。

そして、ここからが「神マナ」の真骨頂です。

生成された文章をスマホの画面上で軽く確認・修正し、転記ボタンを押すだけで、私たちがメインで使用している介護ソフト『カイボケ』へ自動的にデータが転記されます。

以前であれば、事務所に戻ってパソコンを立ち上げ、記憶を呼び起こしながらタイピングしていた時間が、丸ごとゼロになりました。

車の中で少し手直しをしてボタンを押せば、事務所に帰着した瞬間には、その日のモニタリングと支援経過の入力がすべて終わっているのです。

この「超リアルタイム」で書類が仕上がる快感は、一度味わうともう以前のやり方には戻れません。

アセスメント・保険証確認・ケアプラン作成まで、スマホ一台で完結します。

「神マナ」の恩恵はモニタリングだけにとどまりません。

新規のインテークやアセスメントの際にも、過去の情報開示書類やサマリー、面談時の音声情報から必要な要素を網羅的にまとめて、一瞬でアセスメントシートを形作ってくれます。

さらに、利用者情報の入力作業も劇的に変わりました。

介護保険証と負担割合証の写真をスマホでパシャリと撮るだけで、必要な情報が正確に読み込まれます。そこから連動してケアプランの作成までスムーズに行え、これらもすべて『カイポケ』にシームレスに転記が可能です。

事務的な打ち込み作業によるミスやストレスが、**完全に排除**されました。

浮いた時間で、「ケアマネジャー本来の役割」と「心のゆとり」を取り戻しました。

「神マナ」を導入したことで、私たちの業務効率は格段に上がりました。

何よりも変わったのは、**ケアマネジャーの表情**です。常に「早く書類を書かなければ」という目に見えないプレッシャーに追われる日々から完全に解放されました。

時間が生まれたことで、

- ・利用者さまやご家族の話にこれまで以上にじっくりと耳を傾けられる
- ・地域の社会資源の開拓
- ・多職種連携

といった、**本当の意味で「ケアマネジャーとしてやるべき専門業務」にエネルギーを注ぐ**ことができるようになりました。

また、劇的な時間短縮により、人によっては空いた時間を活用して：

- ・自身のキャリアアップのための勉強
- ・副業に挑戦

など、**人生の選択肢や心のゆとりを広げる**ことにもつながっています。

“「神マナ」は、単なる効率化ツールではなく、
ケアマネジャーという職業の働き方と価値を、
根本から変えてくれる革新的なアプリだと確信しています。

— 成田 聡

— ケアプランセンター愛ねっと 代表 / 全国介護支援専門員協会 代表
成田 聡

株式会社ル・シエル / ケアプランそら（滋賀県・京都府／ 居宅介護支援・通所介護・訪問介護）

現場のケアマネが選び、社長が即決。私たちが「神マナ」と共に目指す、これからの介護

滋賀と京都で居宅介護支援・訪問介護・通所介護など多岐にわたる事業を展開する「株式会社ル・シエル」。同社「ケアプランそら」でケアマネジャーを務める小出氏が、現場のケアマネが選び社長が即決したという神マナ導入の経緯と、共に目指すこれからの介護について、思いを聞かせていただきました。

株式会社ル・シエル
ケアプランそら ケアマネジャー

小出

私たちが日々向き合う介護の現場。そこには常に、ある大きな課題がつきまとっていました。

「もっと利用者さまと向き合いたい」のに、書類業務は終わりませんでした。

ケアマネジャーの本来の仕事は、**利用者さまやご家族の「思い」を汲み取り、理想の暮らしを支えること**です。しかし現実には、山のような書類作成やデータ入力に追われ、パソコン画面と向き合う時間が大半を占めていました。

「もっと現場を楽に、そして利用者さまと向き合う時間を増やしたい」

そう思い、私は個人的にChatGPTを使って、ケアマネ業務向けのプロンプト（指示文）を自作して試行錯誤していました。しかし、やはり専

介護現場特有の複雑なニュアンスや、実際の業務フローにピタッと馴染むような成果物は得られず、「あと一歩、かゆいところに手が届かない……」ともどかしさを感じていました。

そんな時、ネット検索の果てに見つけたのが、AI介護アシスタント「神マナ」でした。

大阪の展示会で実際に触れ、さらに開発元の方々と直接お話しした時、「これならいける」と直感しました。開発チーム自体が介護現場のリアルを誰よりも理解しており、私たちがシステムに合わせるのではなく、システムが現場に寄り添ってくれる設計になっていたからです。

面倒な事務作業がボタン一つになり、業務効率が劇的に変わりました。

導入して驚いたのは、現場の業務が目に見えて軽くなったことです。特に効果を実感しているのは、以下の機能です。

- ・訪問先での音声録音と自動文字起こし

メモを取る手間に気を取られず、利用者さまの表情や会話に集中できるようになりました。

- ・支援経過から「カイボケ」への自動転記&議事録要約

これまで何十分もかかっていた文字入力や要約が、ボタン一つで完了します。

- ・過去のデータ検索がスムーズに

「あの時どんなやり取りをしたっけ？」という確認作業が一瞬で終わり、探すストレスがなくなりました。

操作が極めてシンプルなので、ITに苦手意識のあったベテランのケアマネジャーも、今では「これ、本当に助かるね」と笑顔で毎日のように使いこなしています。

AI時代だからこそ、「人にしかできないこと」を大事にしたいと考えています。

代表の宝里にこの成果を報告したところ、「現場がそこまで助かるなら」と導入を即決。その背景には、宝里が常に口にしていて強い想いがありました。

「AIの時代が来たからこそ、対面で利用者さまの話をじっくり聴くような、人にしかできない温かい関わりを一番に大事にしていきたい」

神マナによって事務作業が大幅に時短できた分、私たちはこの「本来やりたかった仕事」に時間を割けるようになっていきます。

- ・利用者さまの訪問時に、これまで以上にじっくりとお話を聴く。
- ・ご家族の小さなお困りごとや、表情の変化にも先回りして気づくことができる。
- ・地域の多職種の方々との連携を、より密に行う。

机の上でパソコンに向かう時間が減り、人と向き合う時間が増えたこと。これこそが、私たちがこのツールを導入して得た一番の価値です。

地域の介護現場を、もっと元気にしたいと思っています。

現在、私たちル・シエルは、自分たちが実体験したこの変化を地域の他の事業所さまにも知っていただきたく、神マナのパートナーとしてご紹介活動も行っています。

これは、単なる「システムの導入」ではありません。

現場の負担を減らし、ケアマネジャーが笑顔で生き生きと働ける環境を作る。そして、その笑顔と生まれた心のゆとりが、利用者さまやご家族へのより手厚いケアへと繋がっていく。

“私たちはこれからも、現場の声に“鬼速”で応えてくれる
心強いパートナー（開発陣）と共に、
地域に根差した「人の温もりを大切にする介護」を
実践していきたいと考えています。

ー ケアプランそら ケアマネジャー 小出

ー 株式会社ル・シエル / ケアプランそら ケアマネジャー 小出

ケアプランパーネル（沖縄県・宜野湾市／居宅介護支援事業所）

立ち上げ期の事業所が、マナと共に歩んだ成長の記録 — ケアマネ2名・1名プランから、一人で1ヶ月40名の引き継ぎを叶えるまで

2025年4月、沖縄・宜野湾市に開業された居宅介護支援事業所「ケアプランパーネル」。「ICTを積極的に活用したい」——開業当初からそんな思いを抱いていた代表・津留真美子氏に、マナと共に歩んできた事業所の成長の軌跡を語っていただきました。

ケアプランパーネル

代表 津留 真美子

開業と同時に、「ICTを活かした事業所づくり」を思い描いていました。

私たちが事業所を立ち上げたのは、2025年の4月。本当に、ゼロからのスタートでした。

在宅勤務を主体とした、新しいかたちの居宅介護支援事業所。だからこそ、**開業当初から「ICTを積極的に活用していきたい」という強い思い**がありました。

そんな時、マナのことを教えてくれたスタッフがいました。「これなら、私たちのやりたい働き方に合うかもしれない」。最初**に情報をくれたその職員には、今でも感謝しています。**

さっそく問い合わせ、2025年7月のはじめにオンライン（Zoom）で詳しい説明を受けました。話を聞くほどに、「これと一緒になら、理想の事業所が作れる」と感じたのを覚えています。

ケアマネ2名の小さなスタートから、事業所の成長と共にマナも育っていきました。

マナを使い始めた当時、私たちはまだ**ケアマネジャー2名の小さな体制**でした。

ですから、無理はしませんでした。まずは、**ケアマネジャー1名分のプラン**から小さく始めたのです。ケアマネが2名在籍する事業所でも、1名分のプランからスタートしてかまわない——そう聞いて、気負わず最初の一步を踏み出すことができました。

ところが、ここから事業所とマナは、二人三脚のように成長していきました。

- ・スタートは**1名プラン** から、無理なく
- ・導入から**4ヶ月目**には、利用するメンバーを増やして**2名プラン** へ
- ・年明けには新たにケアマネジャーが加わり、**3名以上のプラン** へ
- ・そして今では、**総勢7名でマナをフル活用**

事業所が成長してスタッフが増え、その一人ひとりにマナが寄り添ってくれる。事業所の成長と、マナの活用が、ぴったりと足並みを揃えて進んでいきました。

一つひとつ覚えるうちに、毎日手放せない「パートナー」になりました。

最初から全部を使いこなせたわけではありません。**自動転記の機能を一つ、また一つと覚えていく**うちに、気づけば毎日当たり前のようになっています。

今ではマナは、単なる業務ツールではなく、私たちの仕事を隣で支えてくれる「**パートナー的な存在**」です。

確信に変わった瞬間——一人で、1ヶ月に約40名の引き継ぎ

マナの真価を確信したのは、マナを使い始めて半年ほどが経った、2025年末から2026年始にかけての出来事でした。

他事業所からの引き継ぎで、1ヶ月で約40名もの利用者さまを受け入れることになったのです。

当時はまだケアマネジャー2名の体制。もう一人は既存の利用者さまの対応で手一杯でしたから、**実質、私一人で約40名の引き継ぎをやり切らなければなりません**でした。立ち上げ期の事業所にとって、これは並大抵の業務量ではありません。

“現在1ヶ月でひとりで**40名**ほど他の事業所から引き継いでおり、マナとみなさんの助けがなければ絶対に無理でした。本当に感謝しております。

ー ケアプランパーネル 津留

**マナの機能がなければ、
到底乗り切ることはできませんでした。**

この一件で、効果を完全に実感し、確信に変わりました。事業所として大きく前進できたのも、マナと共に走ってきたからこそです。

現場目線で応えてくれるから、安心して任せられます。

マナの心強さは、機能そのものだけではありません。

アップデートのたびに必ず対応してくれて、現場目線の要望にもしっかりと応えてくれる。だからこそ、安心して日々の業務を任せることができます。

これからも、マナと一緒に理想を叶えていきます。

私たちパーネルが大切にしているのは、次の運営方針です。

利用者の有する能力に応じ、自立した日常生活、希望する生活スタイルの実現を目指す。利用者・ご家族の選択に基づき、よりよい介護保険サービスが提供できるように支援を行う。

マナによって生まれた時間とゆとりを活かし、**この方針の質をさらに高め、進化させていきたい**。立ち上げから走り続けてきた私たちにとって、マナは理想と一緒に叶えてくれる仲間です。

**ケアマネ2名の小さな一歩が、
マナと共に大きく育っていった。**

これからもマナの進化と成長に期待しながら、私たちも共に歩んでいきます。

— ケアプランパーネル 代表 津留 真美子

居宅介護支援事業所 島の風（沖縄県・うるま市／居宅介護支援・通所介護）

「眠れなかった夜」からの解放 ― 年配のケアマネさんにも“ゆっくり”根づいた、夫婦経営の事業所の物語

沖縄県うるま市で、居宅介護支援事業所と2つの通所介護（1日型・半日型のリハビリ特化型）を営む「株式会社トータルライフケアおきなわ」。同法人の居宅介護支援事業所「島の風」は、代表取締役・花城清治氏と、管理者を務める花城ちさと氏。ご夫婦を中心に運営されています。

「本人に寄り添った支援」を掲げ、各サービス事業所との迅速な連携を大切にしてきた島の風。2025年に神マナの導入を決断し、年配のケアマネさんも在籍するなかで事業所にゆっくりと浸透していった——その歩みを、管理者の花城ちさと氏に語っていただきました。

株式会社トータルライフケアおきなわ
居宅介護支援事業所 島の風 管理者

花城 ちさと

「本人に寄り添った支援」を掲げ、うるまの地で歩んできました。

私たち島の風は、沖縄県うるま市で居宅介護支援を行っています。目標は、ずっと変わりません。「**本人に寄り添った支援**」です。そして、各サービス事業所との迅速な連携対応を、いつも心がけてきました。

同じ法人内には通所介護事業所（1日型・半日型のリハビリ特化型）を2か所設けており、住み慣れた地域で「本人らしく」生活していけるよう、お手伝いを続けています。現在は、**介護支援専門員5名（うち主任ケアマネジャー4名）**に加え、ケアマネジャーの経験をもつ事務員1名という体制です。

【島の風が大切にしていること】

- ・すべての人々が、最後まで住み慣れた地域で、安全に安心して日常生活を送れるように支援する
- ・社員とその家族が幸せになれるように、ともに歩んでいく

何年も、その日のことを、その日に記録できませんでした。

長く、私を悩ませ続けていたことがあります。それは——**その日に記録したいことを、その日のうちに記録できない**、ということでした。

日中は利用者さまのもとを回り、戻ればすぐ次の対応に追われる。気がつけば、書きたかった記録が手つかずのまま夜を迎えてしまう。家に帰っても、その記録のことが気がかりで、落ち着いて眠ることができません。

結局、眠る前にパソコンを開いて、睡眠時間を削りながら入力する。

そんな日々が、何年も続いていました。

「書きたいのに、書く時間がない」。気がかりを抱えたまま布団に入っても眠れず、また起き出してパソコンに向かう。介護の仕事が好きなのはなのに、いつも記録に追われている——。その重さは、経験した人にしか分からないかもしれません。

今は、時間内に記録が終わる。眠れない夜が、なくなりました。

神マナを使って記録業務を行うようになってから、その日々は一変しました。

記録が、時間内に終わるのです。気がかりを抱えたまま家路につくことがなくなり、夜、それで眠れないということも、なくなりました。

長年、私を縛り続けていたストレスから、ようやく解放されたのです。

“記録に追われて眠れなかった、あの夜から解放されたこと。
これが、神マナを導入していちばん嬉しかったことです。

— 花城 ちさと

記録の負担が軽くなることは、心の負担が軽くなること。

記録に追われる日々から解放されて、いま、しみじみと感じていることがあります。それは、**記録の負担が軽くなることは、そのまま心の——精神的な負担が軽くなることに、つながっている**、ということです。

そして、少しずつではありますが、国が示す「生産性向上」へと歩んでいる手応えもあります。大切にしているのは、効率化のために**ケアの質を落とさないこと**。神マナは、質を保ったまま負担を減らしてくれる。だからこそ私たちは、ケアマネジャーとして安心して、これからも社会に貢献していけると感じています。

記録の負担軽減が、精神的な負担の軽減につながっている——。このことが、本当に嬉しく思えるのです。少しずつでも、質を落とさずに、ケアマネとして社会に貢献していく。その歩みを、これからも続けていきたいと思っています。

“神マナと出会えたことに、心から感謝しています。
今後とも、伴走支援をどうぞよろしくお願いいたします。

— 花城 ちさと

年配のケアマネさんにも、“ゆっくり”浸透していきました。

私たちの事業所は、ITが得意なスタッフばかりではありません。ベテランのケアマネさんも一緒に働いています。

それでも、無理に急がず、事業所のなかで徐々に、着実に浸透していきました。今では、モニタリングなどで神マナアプリをフル活用しています。本当にありがたいと、心から思っています。

次は、ケアプランとデイサービスの記録を、つなげていきたい。

私たちは、同じ法人内の通所介護でも『カイポケ』を使っています。だからこそ、記録マナや通所マナも、ぜひ試してみたいと考えています。

居宅のケアプラン業務と、デイサービスの毎日の記録。この2つを連携させることで、私たちはさらなる進化を目指せるはずです。

これまでも、これから、進化し続けている神マナ。それを使いこなしながら、私たちも一緒に進化していく。トータルライフケアのできる福祉企業として、成長していきたいと思っています。

眠れなかった夜から、解放された。

ゆっくり、でも確かに、

事業所に根づいていく。

－ 株式会社トータルライフケアおきなわ / 居宅介護支援事業所 島の風
管理者 花城 ちさと

有限会社陽気（沖縄県・南城市／有料老人ホーム・デイサービス・訪問看護・訪問介護）

排泄記録から始まった「好循環」

沖縄で「ホームいこい」「デイサービスはいさい」「訪問看護ようき」「訪問介護ようき」を運営する有限会社陽気（陽気グループ）。

「最後の一瞬まで、心からの安らぎを」をミッションに、ご利用者様一人ひとりの物語に耳を傾け、その最終章を共に紡ぐ介護を実践しています。代表・嶺井美幸氏のもとで進められている、現場発のスローDX・AXの軌跡をご紹介します。

有限会社陽気（陽気グループ）
ホームいこい

代表 嶺井 美幸

最初の一步は「排泄記録」でした。

私たちのスローDXは、意外なところから始まりました。排泄記録です。

それまでは紙に記録していたものを、スマホで直接タップする方式に変えました。

しかも、画面には利用者さんのお顔（写真）が表示される。顔を見ながら記録できるので、心理的なハードルが大きく下がりました。

「紙に書くのが面倒」→「タップするだけ。しかも顔が見えるから迷わない」

有料老人ホームでの排泄記録は、記録すること自体が難しいとされてきました。しかし、この仕組みによって**全スタッフが記録を残すことに成功**しました。

「誰が、いつ、何をしたか」が見えるようになりました。

記録が蓄積されると、大きな変化が起きました。

どのスタッフが、どの利用者さんに、いつ、何をしたか。

これが明確に振り返れるようになったのです。

すると、改善のアイデアが次々と生まれ始めました。

「この時間帯に人手が足りていないのでは？」

「このケアの順番を変えたら、もっと効率的では？」

現場全体が、**自然と好循環に入っていました。**

情報リテラシーが高まり、進化が加速しました。

排泄記録の成功をきっかけに、職員間の情報リテラシーが飛躍的に高まりました。

その結果、

- ・訪問介護のスケジュール・シフトを最適化
- ・自社の強みを活かした介護モデルを実現
- ・一つひとつの業務を仕組み化

日々一步一步、成長し、進化を実感できています。

排泄記録から始まり、今では20を超える記録を電子化しました。

排泄記録でやり方を覚えたスタッフたちは、次々と他の記録もデジタルに移行していきました。

今では、**20個**を超える記録が紙からデジタルに変更され、記録と確認の作業がすべて電子化されています。

そして蓄積されたデータを利活用し、より最適な業務フロー・評価体制・教育体制の改善を日々行っています。

スタッフの質が上がり、医療ニーズにも対応できるようになりました。

仕組みが進んだことで、スタッフの質そのものが向上しました。今では、**医療ニーズの高い要介護者の介護も行える体制**を構築しています。

人材教育にも力を入れており、一般職から役職が上がり、才能が開いたスタッフにより、これまで考えられなかったレベルに施設全体が進化しています。

私たちのDXを支えているのは「3つの柱」です。

私たちは、DXの基盤として3つの柱をシステム・仕組みとして大切にしています。

- ① **利用者様主義** — すべてのケアは利用者さんを中心に設計する
- ② **職員主義** — スタッフが働きやすい環境をつくることが、良いケアにつながる
- ③ **環境整備** — デジタルとリアル、両方の環境を整え続ける

この3つの柱を土台に、日々成長と進化を続けています。

**排泄記録という小さな一歩が、
施設全体の進化につながった。**

これからも一日一日を大切に、ご利用者様と職員、そして地域とともに歩んでいきます。

— 有限会社陽気 / ホームいこい 代表 嶺井 美幸

訪問介護ようき（沖縄県・南城市／訪問介護）

「打ち込めない現場」だからこそ、声で記録する

有限会社陽気（陽気グループ）が運営する「訪問介護ようき」。自社施設のご利用者様へ訪問介護と訪問看護を一体で提供し、医療ニーズの高い方も住み慣れた地域で暮らせる体制を築いています。その訪問介護の現場で、神マナがどう活きているのかを伺いました。

有限会社陽気（陽気グループ）
訪問介護ようき

代表 嶺井 美幸

訪問の現場では、その場で文字を打ち込むのは簡単ではありません。

訪問介護では、ケアをしながらその場でキーボードを打つことはできません。だからこそ私たちは、「音声」で記録することになりました。

- ・スケジュールの割り当て管理
- ・訪問介護記録の音声入力
- ・音声入力したデータを、そのままカイボケへ自動転送

打ち込むのが難しい場面でも、話すだけで記録が残る。これだけで、入力の負担が大幅に圧縮されました。

施設記録のデータを、訪問介護にもそのまま活かす。

私たちは、自社施設のご利用者様に訪問介護を行っています。だからこそ、施設記録で入力したデータを、訪問介護でもそのまま活用できます。

たとえば、1日に3回測るバイタル。その記録を「訪問時の点」としてではなく、**ご利用様が過ごした1日の「線」**として蓄積していきます。

点としての記録ではなく、1日の「線」として状態を見られる。施設と在宅の記録がつながることで、ケアの解像度が一段と上がりました。

ナースと介護職が、同じ目線で。

訪問介護と訪問看護を組み合わせたことで、具体的なメリットが生まれました。

- ・ナースと介護職の密接な連携が図れている
- ・介護職であっても、ナースと同等の知識を共有し、留意点を正しく理解できている
- ・プロ意識が高まり、ケア全体の質が向上している

病院へ行かずとも、住み慣れた地域で質の高い医療的ケアを受けられる。地域の多様なニーズを持つ方々を、問題なく受け入れられる体制が整いました。

**訪問介護と訪問看護を組み合わせ、
医療ニーズの高い方も、地域で支える。**

ー 有限会社陽気 / 訪問介護ようき 代表 嶺井 美幸

訪問看護ようき（沖縄県・南城市／訪問看護）

訪問看護記録書Ⅱを、手入力から「AI統合×SOAP」へ

同じく有限会社陽気（陽気グループ）が運営する「訪問看護ようき」。医療ニーズの高い入居者様へのケアで高い評価をいただいています。手入力に追われていた看護記録が、神マナでどう変わったのかを伺いました。

有限会社陽気（陽気グループ）
訪問看護ようき

代表 嶺井 美幸

手入力の「訪問看護記録書Ⅱ」に、かなりの時間を費やしていました。

これまでは、過去の記録を見直しながら手入力で訪問看護記録書Ⅱを作成しており、**かなりの時間を費やして**いました。

いまは、施設記録アプリ「記録マナ」から情報を連携させる運用に変わりました。

3つの情報をAIが統合し、SOAP形式で出力する。

具体的には、次の3つをAIがひとつにまとめます。

1. 前回の記録から読み取れる状態
2. 施設記録にリアルタイムで入力された今日の経過
3. いままさに自分が音声入力した現在の状態

前回の記録 × 今日の施設記録 × いまの音声入力。この3つをAIがSOAPの形に整えて、そのままカイポケへ。手入力で積み上げていた作業が、ボタンひとつで完結します。

記録の時間が、利用者様と向き合う時間になりました。

書くことや入力することに追われるのではなく、**目の前の利用者様と向き合う時間**、あるいは命に関わる緊急時の判断といった、本来の業務に時間を使えるようになりました。

看護師と介護職が「看護の視点」を共有し、残薬の管理や与薬チェック、バイタル、排泄、食欲といった専門的な視点を、日々のケアに活かしています。

**記録に追われる時間を、
いのちと向き合う時間へ。**

ー 有限会社陽気 / 訪問看護ようき 代表 嶺井 美幸

オープン あい ケアプランセンター（静岡県・浜松市／居宅介護支援）

「思い出探しの旅」を、降りた日 ― 浜松のケアマネ・大畑かおりさんが、声で記録を取り戻すまでの物語

静岡県浜松市で、居宅介護支援事業所「オープン あい ケアプランセンター」を営む、代表社員でケアマネジャーの大畑かおり氏。2024年11月に立ち上げたばかりの事業所で神マナを導入し、記録の負担がどう変わったかを、率直に語っていただきました。

合同会社オープンあい／オープン あい ケアプランセンター

代表社員 大畑 かおり

十数年、記録をパソコンに打ち込むことが、とてもとても苦痛でした。

私は、ケアマネジャーとして十数年、現場を歩いてきました。ずっと私を悩ませていたのが、**記録をパソコンに打ち込む**という作業です。

アセスメント、モニタリング、サービス担当者会議録。訪問やサービス事業所との連絡調整、利用者さんとの電話でのご相談（長電話で、軽く一時間ということもあります）。行政、包括、施設探し、入退院関係――。ケアマネ業務の一連の記録を、すべて入力しないといけない。それが、とてもとても苦痛でした。

月末には、メモが山のように。処理できず、暫くためこんでしまったことも。頭の中にメモした情報もあって、「誰が、いつ、どこで、何を、どのように……」——思い出探しの旅です（笑）。楽しい旅では、ありませんね。そんなことを、十何年も繰り返してきました。正直に言えば——疲れしました。

大阪の展示会で、二人で三度もブースへ。

転機は、大阪の展示会でした。管理者と二人で、神マナのブースに、気づけば三度も足を運んでいました。そのたびに質問して、デモンストレーションの説明を受けて。「これは、もしかしたら——」。毎日の大変さを、なんとかしたい。その一心でした。

つまずいたときは、二人三脚で。

使い始めた最初から、すべてが順調だったわけではありません。設定画面の入力が一文字ずつになってしまい、その影響なのか、カイボケへの自動転記も、思うように動かないことがありました。新しい道具には、つまずきがつきものです。

そんなとき、率先して動いてくれたのが、うちの管理者でした。設定画面の入力のこと、カイボケ自動転記のこと——気づいた不具合を、そのつど、丁寧に開発チームへ伝えてくれたのです。

驚いたのは、**対応の速さ**でした。報告した不具合は、次々と直っていきます。止まっていた支援経過は無事に回復し、モニタリングの転記も、しっかりできるようになりました。「焦らなくていいですよ」と伴走してもらえたことが、何より心強く、改善のたびに、この道具を選んでよかったと感じられました。

今は、声で記録しています。

慣れるのに時間はかかりましたが、急がず一つずつ。今では、担当者会議も、支援経過も、モニタリングも、**話すだけで**記録がつくれます。あの「思い出探しの旅」から、私は、静かに降りることができました。

“ばっちり、うまく行きました。

神マナさん、いつもありがとうございます。

— 大畑 かおり

これからも、利用者さんの隣に。

記録に追われて失っていた時間を、これからは、目の前の利用者さんへ返していきたいと思っています。時代が変わっても、無理なく、長く。負担が軽くなることは、働きがいにつながり、やがてケアマネジャー自身のQOL——暮らしの質——を高めることにも、きっとつながっていくはずです。

「思い出探しの旅」は、終わりました。

これからは、

利用者さんと向き合う時間を、旅していきます。

— 合同会社オープンあい／オープン あい ケアプランセンター 代表社員 大畑 かおり

第6章のまとめ

導入した施設に共通していること。

1 「全替え」ではなく「アドオン」で始めた

2 スローに進めた

1日1機能、無理をしない

3 スタッフの不安に寄り添った

「ゆっくりでいい」と伝えた

4 焦らず、効果が出るまで続けた

そして何より——どの施設も、「無理をしない」を貫いたまま、半年というゆるやかな時間の中で、確かな手応えをつかんでいきました。

無理をしなくても、ゆっくり半年続ければ、こう変わっていく。

最初の2週間～1ヶ月

小さな変化を実感する

そのうちに

効果が積み重なり、毎日手放せなくなる

数ヶ月後

事業所全体の成長・進化を体感する

● 半年が経つ頃

「これを使えば、進化・成長する事業所をつくれる。本当に目指したい理想を叶えられる」という確信に変わる

変化 → 効果 → 体感 → 確信。

急がなくていい。スローでも——いや、スローだからこそ、ゆっくり続けた半年が、揺るがない確信へと変えてくれるのです。

**無理せず、ゆっくり。
それでも半年後には、
世界が変わっている。**



第7章

**さあ、スローDX・
AXをはじめよう**

4つのステップで、今日から始めます

この章で手に入るもの

この章は、実際に始めるための手順です。

先に、全部お見せします。

01 Step 1 インストール

スマホでQRを読み取るだけ。30秒で終わります。無料です。

02 Step 2 カイボケと同期

ログイン情報を入れるだけで、利用者さんの情報が自動で入ります。ここまで約10分。

03 Step 3 まず3名で試す

制限版は3名まで、全機能を期限なしで使えます。合わなければ、やめればいいだけです。

04 Step 4 全利用者に広げる

「もう手放せない」と感じてからで大丈夫です。急ぐ必要はありません。

05 AX無料診断で現在地を知る

公表されている情報をもとに、いま自分の事業所がどこにいるかを、その場で確かめられます。

読み終わるころには、**最初の一步は、もう踏み出せています。**

ここから、ひとつずつ詳しくお話しします。

この本との出会いは、「たまたま」じゃない

然るべき時に、然るべき場所にいる

この本を手にとったあなたへ。

「たまたま」この本に出会ったと思いますか？

私はそうは思いません。

あなたは今、然るべき時に、然るべき場所にいるのです。

介護の現場を、もっと良くしたい。

スタッフに、もっと笑顔で働いてほしい。

利用者さんに、もっと良いケアを届けたい。

その想いがあるから、この本を最後まで読んでくれている。

その想いがある限り、あなたの施設は必ず変われます。

さあ、具体的な一歩を踏み出しましょう。

Step 1

神マナをインストール（30秒）

Step 2

カイポケと同期（10分）

Step 3

まず3名で、全機能を無料で試す

Step 4

「もう手放せない」を全利用者へ

たった30秒で始まる第一歩

Step 1 神マナをインストールする



スマホのカメラで、下のQRを読み取るだけ。

お使いの端末（iPhone / Android）を自動で判別して、ストアが開きます。



または、App Store・Google Playで「**神マナ**」と検索してもOK。

インストールは、無料。 アカウント登録も、たった数分。

この「インストール」が、あなたのスローDX・AXの第一歩です。

💡 この本をアプリで読んでいる方は、もう Step 1 は完了していますね！

10分でカイボケとつながる

Step 2 カイボケと同期する



アプリの案内に従って、カイクエのログイン情報を入力するだけ。

同期が完了すると、カイクエに登録されている利用者さんの情報が神マナに取り込まれます。

手入力は不要です。

利用者さんの名前、被保険者番号、保険情報。すべてが自動で同期されます。

「無料で全機能」の秘密

Step 3 まず3名で、すべてを試す



神マナは、制限版（無料）でもしっかり使えます。

制限版では、3名の利用者さんまですべての機能を使うことができます。

- ・記録の入力
- ・計画書の作成
- ・報告書の自動生成
- ・カイポケへの連携

3名まで、制限なし。期限ありません。ずっと無料です。

「3名で試してみて、良かったら全員に広げる」

これが、スローDX・AXの正しい始め方です。

リスクはゼロ。合わなければ、やめればいいだけ。

でも、やめる人はほとんどいません。

「もう手放せない」と感じたら

Step 4 全利用者に広げる



3名で試してみて、こう感じたら――

通常版に切り替えると、すべての利用者さんの制限が解除されます。
3名だけでなく、全員。

- ・全利用者の記録・計画書をすぐに編集
- ・カイポケ連携・報告書自動作成が使い放題
- ・スタッフ全員で共有

通常版の料金は、1日あたり**約367円**～（税込）。
スタッフ1人の残業1時間分よりも安い。

通常版は「コスト」ではなく、施設の成長への「投資」です。

まず、いまの位置を知る

AX無料診断 — 公表情報から、その場で確かめられます

走り出す前に、いま自分がどこに立っているかが分かると、進む先を決めやすくなります。

そのために**AX無料診断**をご用意しました。

■ 事業所を選ぶだけ

種別と事業所名で検索するか、地図から都道府県を選びます。

■ 公表情報+5つの質問

公表されている情報を読み込んだうえで、5つの質問にお答えいただき、総合AX評価を採点します。

■ 無料・登録不要

結果はその場でご覧いただけます。診断書はPDFで保存することも、メールで受け取ることもできます（メールアドレスの入力は任意です）。

AX無料診断

<https://lifeshift-inc.com/ax-shindan/>

この診断は、優劣をつけるためのものではありません。

いまどこにいるかが分かれば、次の1つが決めやすくなる。それだけのためのものです。

ここまで読んでくださったあなたなら、もうお分かりだと思います。
大切なのは、いまの位置ではなく——**明日、1つ動かすこと**です。

あなたはもう、スローDX・AXを始めている

あなたの施設の「進化」を、ここから

この本で伝えたかったこと。

それは、「DXも、AXも、難しくない」ということです。

スローでいい。

1日1つでいい。

無理をしなくていい。

それでも、驚くほど大きな変化が起きます。

あなたの施設が、

スタッフが笑顔で働ける場所になる。

利用者さんが安心して過ごせる場所になる。

ご家族が信頼できる場所になる。

そんな「宇宙一カンタンに成長進化する介護施設」を、一緒につくりましょう。

最初の一步は、もう踏み出しています。

この本を読んだあなたは、もうスローDX・AXを始めているのです。



おわりに

おわりに

この本を最後まで読んでくださったあなたへ

心からの感謝を込めて

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

「宇宙一カンタンに」。

このタイトルに込めたのは、「誰でもできる」という想いです。

ITが得意な人だけのものじゃない。

大きな施設だけのものじゃない。

若いスタッフだけのものじゃない。

スタッフ3人の小さな事業所でも。

パソコンが苦手な60代の方でも。

「DX」も「AX」も、今日初めて聞いた方でも。

誰でも、今日から、始められる。

それがスローDX・AXです。

ロマンとそろばん、ふたたび

幸せの連鎖をつくるために

私たちライフシフトのビジョンは、

「誰もが、幸せに生きた証が残せる社会へ」

これは理念であり、**ロマン**です。

その実現のために、スローDX・AX——つまり**そろばん**を使って、

1社でも多く、進化・成長する介護施設を増やしたい。

1社でも多く、DX・AXで諦めてしまう介護施設を減らしたい。

福祉業界、介護業界には、素晴らしい理念を持っている会社がとても多い。

私はそれが、この業界の一番の強みだと思っています。

福祉のプロだからこそ——

自分も幸せ

家族も幸せ

社員も幸せ

地域も幸せ

社会も幸せ

誰もが幸せ

誰かが犠牲になって支えるのではなく、サステナブルに。

福祉上手な介護施設を、1つでも多く増やしていけたらいいなと思っています。

あなたの「本当は」、きっと叶う

共に歩んでいきましょう

スローDX・AXの考え方で実践をしていってもらえれば、必ず――

本当はこういう施設にしたい

本当はこういう会社になりたい

本当はこういうケアをしたい

その「本当は」が、実現できる。

理想を叶えられる。

私はそう信じています。

あなたの施設の明日が、今日よりも少しだけ良くなりますように。

ゆっくり、一歩ずつ。

でも、確実に。

私たちライフシフトも、毎日スローDX・AXを実践しています。

小さな改善を毎日積み重ねて、もっと多くの介護施設に届けられる会社
に成長進化させたい。

だから――

「共に」成長させてください。

そして、いつか——介護業界全体がもっと良くなった時に、直接お会いして、笑いながらお酒を飲んだり、美味しいものを食べたり。

「あの時、一緒に始めてよかったね」

そんな時間を共有できたら、こんなに幸せなことはありません。

私たちは、あなたと同じ方向を向いている仲間です。

最後に、お礼を言わせてください

謝辞

この本は、私ひとりで書いたものではありません。

妻へ

まず、妻に。

私が株式会社ライフシフトを立ち上げたのは、2020年です。

一方の「陽気」は、**30年以上つづいてきた会社**。

その会社を義母から引き継ぎ、いまは代表として背負っています。

「数字を直視しよう」と私が言い出したとき、
いちばん見たくない数字と最初に向き合わなければならなかったのは、
私ではなく、妻のほうでした。

それでも、逃げずに向き合ってくれた。

この本に書いた6年は、半分は妻の6年です。

そして代表を引き継いでからの陽気は、業績がさらに伸びています。
働く人も、利用者さんも、ご家族も、地域も。

この本で**八方よし**と呼んでいる状態を、**実際につくっているのは妻**です。

ひとつ、はっきり書いておきます。

私が妻を尊敬しているのは、**妻だから、ではありません。**

迷う場面で、決めるべきことを決められる**経営判断**。

人がついてくる**統率力**。

机の上の話ではない、**現場を知っている強さ**。

事業所を回しつづけるための、**運営のノウハウ**。

一人の経営者として、
本当にすごい人だと思っています。

同じ会社を背負う相手として、心から尊敬しています。
いつも、本当にありがとうございます。

陽気で働くみなさんへ

新しいことを始めるとき、いちばん負担がかかるのは現場です。
「また何か変わるのか」と思われても、仕方がなかったと思います。
それでも、1日1つ、付き合ってくださいました。
排泄記録の1つから始まった変化が、いまの陽気をつくっています。
この本に書いてあることは、**全部みなさんが実際にやってくれたこと**です。

事例を寄せてくださった事業所のみなさんへ

第6章に登場してくださった、8つの事業所のみなさん。

うまくいった話だけでなく、**迷ったところ、つまづいたところ**まで、
そのまま話してくださいました。

きれいな成功談だけを並べた本は、たぶん誰の役にも立ちません。
みなさんの正直さが、この本をいちばん信用できるものにしてくれました。

本当に、ありがとうございます。

そして、ここまで読んでくださったあなたへ

「はじめに」で「1分だけ」とお願いしたのに、
ずいぶん長く、お付き合いいただけてしまいました。

おわりに

忙しい毎日のなかで、時間を割いてくださったこと。
それが、この本にとっていちばんの報いです。

— その1分が、今日の1つになりますように。 —

あなたの声を聞かせてください

心からの感謝を込めて

ここまで読んでくださった、あなたへ。

あなたの話を、聞かせてください。

「こんなふうになりました」

「ここが良かった」

「ここが、よくわからなかった」

「ここをもっと、こうしてほしい」

神マナを使っていなくても、かまいません。

本を読んだ感想だけでも、十分すぎるほどありがたいです。

どんな声でも、私たちにとっては宝物です。

あなたの声が、神マナをもっと良くする力になります。

そして、次にこの本を手にする誰かの、背中を押す言葉になります。

この本も、1日1つ、良くしていきます

ひとつ、お約束させてください。

この本は、完成品ではありません。

読みにくかったところ。わかりにくかったところ。

「ここが知りたかったのに、書いていない」と思ったところ。

そういう声をいただくたびに、私たちはこの本を書き直していきます。

1年後には、いまとは違う本になっているはずです。

— 本のほうも、スローDX・AXです。 —

1日1つ、良くしていきます。

おわりに

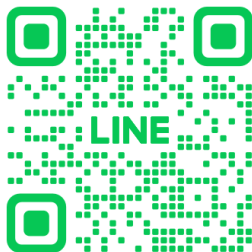
いま読んでくださっているこの本も、
あなたの前に読んだ誰かの声で、すでに一度良くなったものかもしれません。

送り先は、公式LINEです

公式LINEに一言メッセージを送っていただけるだけで、私たちは大喜びします。

「読みました！」の一言だけでも、十分嬉しいです。

下のボタンから、そのまま送れます。



一緒に、介護の未来を変えていきましょう。

株式会社ライフシフト

嶺井政哉

ビジョンマップ

あなたの施設も、この絵の中に

最後に、私たちが目指す世界を1枚の絵にまとめました。

「誰もが幸せに生きた証が残せる社会へ」——

このビジョンマップには、スローDX・AXを通じて実現したい未来のすべてが詰まっています。

介護に関わるすべての人が笑顔で働き、利用者さんご家族も、地域も社会も、みんなが幸せになれる世界。

この絵の中に、あなたの施設の姿も、きっとあるはずです。

*私たちが考える未来。

Joyful Lives. Creating Shared Legacies



「誰もが、
幸せに生きた証を
残せる社会へ」



著者プロフィール

嶺井 政哉

Seiya Minei

株式会社ライフシフト 代表取締役

沖縄県出身。介護業界の課題に向き合い、テクノロジーの力で現場を支えたいという思いから、株式会社ライフシフトを創業。

「誰もが幸せに生きた証が残せる社会へ」をビジョンに掲げ、介護事業所向けAI業務支援アプリ「神マナ」を開発・提供している。

ロマンとそろばん

理念を叶えるための、もうひとつの翼

「スローDX・AX」という考え方を提唱し、ITが苦手な現場でも無理なくデジタル化を進められる方法論を広めている。

本書『宇宙一カンタンなスローDX・AXの教科書』は、介護業界で働くすべての人に向けた、DX・AXの入門書であり、実践書です。

株式会社ライフシフト

LIFESHIFT K.K.



「マナ」で、介護のすべてをひとつに。

介護現場のあらゆる業務をAIで支援する「マナ」シリーズを開発・運営しています。

■ **居宅マナ** — 書類が一瞬。ケアプラン・報告書・サマリーをAIが作成

■ **訪看マナ** — 声で記録、報告書は自動生成

■ **訪問マナ** — 声で残して、転記ゼロ

■ **記録マナ** — 指一本で記録完了。音声・OCR対応

■ **勤怠マナ** — 月末集計0秒。QR打刻で完了

■ **通所マナ** — デイの記録も計画書もカンタンに

■ **福祉用具マナ** — 書類管理をデジタル化、忘れ防止アラート

＋ どのマナでも共通で使える便利機能

■ **名刺・連絡先の管理** — 関係先の名刺・連絡先を一元管理

■ **ボイスメモ** — 会話をその場でワンタップ録音

■ **書類管理** — 書類は写真で撮ってクラウド保存

■ **書庫** — 音声も書類もまとめてクラウド保存・検索

すべてのマナが、ひとつのアプリ「神マナ」に統合されています。

無料ダウンロード

カイボケに連携するAI神マナ

カイボケに、そのまま。記録の“転記”がゼロに。

▼ アプリを無料でダウンロード

スマホのカメラで下のQRを読み取ってください。お使いの端末（iPhone / Android）を自動で判別して、ストアが開きます。



ホームページ： <https://kaigonomana.com/>

ご感想・お問い合わせは、アプリ内の「お問い合わせ」または公式LINEからお気軽にどうぞ。

用語集

本書に登場する専門用語・キーワードの解説

※1 DX (ディーエックス)

Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション) の略。デジタル技術を活用して、ビジネスモデルや業務プロセスを根本的に変革すること。

本書では「難しいIT改革」ではなく、「日々の仕事をちょっとだけ楽にする工夫の積み重ね」という意味で使っています。大げさに考える必要はありません。

※2 ライフシフト (らいふしふと)

株式会社ライフシフト。本書の著者・嶺井政哉が2020年に設立した、介護のDX・AX支援を行うテクノロジー企業。神マナの開発・運営元。

「誰もが幸せに生きた証が残せる社会へ」をビジョンに掲げ、1社でも多く進化・成長する介護施設を増やすために、スローDX・AXの考え方とツールを提供しています。

※3 テクノロジー (てくのろじー)

英語の "Technology"。科学的な知識や技術を実用的に応用したもの。IT・AI・クラウド・スマートフォンなど、デジタル技術全般を指すことが多い。

テクノロジーは「目的」ではなく「手段」です。介護の質を上げるため、スタッフの負担を減らすため、経営を安定させるため。目の前の課題を解決する道具として、テクノロジーを使いこなす。それがスローDX・AXの考え方です。

※4 サステナブル (さすてなぶる)

英語の "Sustainable"。「持続可能な」という意味。環境・社会・経済のバランスを保ちながら、長期的に継続できる状態のこと。

介護事業は「続けること」に価値がある。利用者さんの生活を支える以上、事業が途絶えてはいけない。だからこそ、無理のない方法で経営を維持し続けることが大切です。

※5 スローDX (すろーでいーえっくす)

本書の造語。「ゆっくり・少しずつ・無理なく」進めるDXのアプローチ。第2版からは、AIが実行まで引き受けるAXも同じやり方で進められることから、まとめて「スローDX・AX」と呼んでいる。

一気に変えようとするとう失敗する。1日1つ、全員がついてこられるペースで進める。これが最も確実で、最も遠くまで行ける方法だと確信しています。DXでもAXでも、この進め方はまったく変わりません。変わるのは、届く場所だけです。

※6 アプリ (あぷり)

Application (アプリケーション) の略。スマートフォンやタブレットで動作するソフトウェアのこと。

本書で「アプリ」と言えば、主にスマホアプリのこと。パソコンを開かなくても、ポケットから取り出してタップするだけ。この手軽さが、DX・AXを続けられる秘訣です。

※7 全替え (ぜんがえ)

既存のシステムやソフトウェアを丸ごと別のものに入れ替えること。リプレース (Replace) とも呼ばれる。導入コスト・学習コスト・移行リスクが非常に高い。

全替えは最もリスクが高い選択肢です。特に、連携性の低いシステムや、オンプレミス型の重たい独立システムを導入してしまうと、後から身動きが取れなくなります。「全替えしたくなくても、もうそれしか選択肢がない」という状況に陥りかねません。だからこそ、連携性の高いカイボケのようなクラウド型システムを基盤にし、足りない部分だけをアドオンで補う。これがスローDX・AXの鉄則です。

※8 カイボケ (かいぼけ)

株式会社エス・エム・エスが提供する介護業務支援ソフト。請求業務、利用者管理、計画書作成などの機能を持つ、介護事業所向けの基幹システム。

多くの介護施設が使っている「インフラ」的な存在。本書では、カイボケを「やめる」のではなく「活かす」ことを前提にしています。今あるものを捨てずに、足りない部分を補う。それがスローDX・AXです。

※9 AI (エーアイ)

Artificial Intelligence (人工知能) の略。コンピュータが人間の知的な作業 (文章作成、データ分析、パターン認識など) を自動で行う技術の総称。

AIは「道具」です。包丁と同じ。料理人が包丁を使いこなすように、介護のプロがAIを使いこなす。AIに使われるのではなく、AIを使う側に立つことが大切です。

※10 使い方ガイド (つかいかたがいで)

神マナに内蔵されている操作説明機能。画面上で実際の操作手順をステップバイステップで案内してくれる。「手取り足取りサポート」とも呼ばれる。

人に聞かなくても、アプリ自身が先生になってくれます。「これ、どうやるんでしたっけ？」がなくなる。何度見ても嫌な顔をされない、24時間対応の最高の先生です。

※30 単純接触効果 (たんじゅんせっしょくこうか)

心理学の用語（英語では mere exposure effect）。特別に良い経験をしなくても、くり返し接するだけで、その対象への好意が高まる現象。1968年に心理学者ロバート・ザイアンスが報告して以来、多くの追試が重ねられている。

「触れた回数だけ、人は変わる」の正体です。ITが苦手な方が使えるようになるのは、根性や才能ではなく、単に触った回数の差。だから毎日ちょっとだけ触る——それだけで十分なのです。

※31 自己決定理論 (じこけっていりろん)

心理学者エドワード・デシとリチャード・ライアンが提唱した動機づけの理論（英語では Self-Determination Theory）。人の意欲は「自律性（自分で決められる）」「有能感（できるようになる手ごたえ）」「関係性（誰かとつながっている）」の3つが満たされるほど高まるとされ、教育・医療・職場で広く検証されている。

「1日1つ、自分で選んで、できるようになる」という進め方が効くのは、この3条件をそのまま満たしているからです。ご褒美で釣るのではなく、仕組みのほうを整える。それが長続きの条件です。

※32 エラーマネジメント (えらーまねじめんと)

産業・組織心理学の考え方（英語では error management）。エラーの発生そのものをゼロにしようとするのではなく、「エラーは起きるもの」という前提に立ち、早く気づいて立て直す力を高めるという発想。この考え方を取り入れた研修（エラーマネジメント訓練）は、従来型の研修より学習効果が高いと報告されている。

本書で「トラブル」ではなく「エラー」と呼ぶことをおすすめしているのは、この考え方に沿っています。「トラブル」は気持ちを止め、「エラー」は手を動かす。呼び方ひとつで、次の一步が変わります。

※11 UI (ユーアイ)

User Interface（ユーザーインターフェース）の略。ソフトウェアやアプリの「画面の見た目」と「操作のしやすさ」のこと。

「UIが9割」と書きました。どんなに優れた機能があっても、使いにくければ誰も使いません。逆に、画面が直感的で気持ちよければ、自然と毎日使いたくなる。良いUIは良い経営に通じます。

※12 サジェスト (さじえすと)

英語の "Suggest"（提案する）から。アプリやシステムが「次にやるべきこと」を自動的に提案してくれる機能のこと。

DX・AXが進まない最大の原因は「何をすればいいかわからない」こと。アプリが次の行動を教えてくれれば、迷わず続けられる。考える負担をゼロにすることが大切です。

※13 アラート （あらーと）

英語の "Alert"（警告・通知）から。未完了のタスクや期限切れなどを自動で知らせてくれる機能のこと。

人間は忘れる生き物です。だから機械に任せる。「忘れる恐怖」から解放されることで、本来のケアに集中できるようになります。

※14 ナビ （なび）

ナビゲーション（案内）の略。神マナに搭載されている「ナビモード」のこと。画面上でタップすべき場所や次の操作を自動的に案内してくれる機能。

「何をすればいいかわからない」をゼロにする機能です。画面上に矢印や吹き出しが表示され、迷わず操作できます。初めてでも、何度でも、安心して使えます。

※15 加算 （かさん）

介護保険制度において、基本報酬に上乘せして算定できる追加の介護報酬。特定の条件（人員配置、サービスの質、記録の整備など）を満たした場合に算定できる。

適切な記録が残っていれば取れるはずの加算を、多くの施設が取りこぼしています。DX・AXで記録の質と量を安定させれば、売上に直結します。「投資」としてのDX・AXの最もわかりやすい効果です。

※16 クラウド （くらうど）

英語の "Cloud"（雲）から。インターネット上のサーバーにデータを保存・処理する仕組み。手元のパソコンにデータを置く必要がなく、どこからでもアクセスできる。

「どこからでも使える」「データが失われない」「共有が一瞬」。クラウドがあるからこそ、スマホ1台でDX・AXが始められる時代になりました。10年前には不可能だったことです。

※17 神マナ （かみまな）

株式会社ライフシフトが開発・提供する、カイポケ連携AI搭載の介護業務支援アプリ。正式名称は「神マナ」。

「神マナ」は、カイポケを置き換えるのではなく、カイポケの横に持つ「もう1つの武器」です。記録・計画書・報告書・勤怠まで、介護のすべてを1つのスマホアプリに集約しました。

※18 オールインワン （おーるいんわん）

英語の "All-in-One"。必要な機能がすべて1つにまとまっていること。複数のツールを使い分ける必要がない状態。

記録も、計画書も、報告書も、1つのアプリの中にある。必要な時に、必要な機能だけ使えばいい。「あの書類はどこだっけ？」がなくなることが、現場の安心につながります。

※19 情報リテラシー (じょうほうりてらしー)

情報を適切に読み取り、活用する能力のこと。ICT（情報通信技術）ツールを使いこなす力も含む。

デジタルツールを1つ使いこなすと、次のツールも自然と使えるようになります。排泄記録から始めて、気づけば20以上の記録をデジタル化できた事例もあります。小さな一歩が、大きな力になるのです。

※20 アドオン (あどおん)

英語の "Add-on"。既存のシステムやソフトウェアに「追加」する形で機能を拡張すること。全面入替（リプレース）の対義語。

「全替え」は危険。今のやり方を壊さず、足りない部分だけを補う。合わなければすぐに元に戻せる。リスクゼロで始められる。これがスローDX・AXの基本姿勢です。

※21 App Store (アップストア)

Apple社が運営する、iPhone・iPad向けアプリの公式配信プラットフォーム。アプリの検索・ダウンロード・アップデートができる。

iPhoneをお使いの方は、App Storeで「神マナ」と検索してください。無料でダウンロードできます。

※22 Google Play (グーグルプレイ)

Google社が運営する、Android端末向けアプリの公式配信プラットフォーム。アプリの検索・ダウンロード・アップデートができる。

Androidスマートフォンをお使いの方は、Google Playで「神マナ」と検索してください。無料でダウンロードできます。

※23 インストール (いんすとーる)

英語の "Install"。アプリやソフトウェアをスマートフォンやパソコンに導入(ダウンロードして使える状態にする)すること。

スローDX・AXの第一歩は、まずインストールすること。たった30秒で完了します。この小さなアクションが、施設の未来を変える出発点になります。

※24 同期 (どうき)

英語の "Sync" (Synchronize) から。2つ以上のシステム間でデータを自動的に揃える(一致させる)こと。

神マナとカイボケを「同期」すると、カイボケの利用者情報が自動で神マナに取り込まれます。手入力は不要。約10分で完了します。二重入力の苦勞から解放される瞬間です。

※25 制限版 (せいげんばん)

神マナの無料プラン。3名の利用者さんまで、すべての機能を期限なく利用できる。

まず3名で試してみて、良かったら全員に広げる。これがスローDX・AXの正しい始め方です。リスクはゼロ。合わなければ、やめればいいだけ。

※26 通常版 (つうじょうばん)

神マナの有料プラン。利用者数の制限が解除され、すべての利用者さんに対してすべての機能を利用できる。

1日あたり約367円～。スタッフ1人の残業1時間分よりも安い。「コスト」ではなく、施設の成長への「投資」です。

※29 AX (エーエックス)

AI Transformation (AIトランスフォーメーション) の略。DXでつくったデジタル基盤の上で、AIが「判断」と「実行」まで担う段階。記録・計画・報告といったアウトプットそのものをAIが下書き・実行し、人は確認と判断に集中する業務体制を指す。

本書では、DXとAXの分かれ目を「誰が実行するか」に置いています。DXは紙をデジタルに置き換えるところまで——入力・確認・転記の実行は人に残ります。AXはその実行をAIが引き受けます。判断まで手放すという意味ではありません。決めるのは、最後まで現場の人です。

宇宙一カンタンに 成長進化する介護施設をつくる 「宇宙一カンタンなスローDX・AXの教科書」

2026年5月 初版発行

著 者：嶺井 政哉

発 行：株式会社ライフシフト

URL：https://lifeshift-inc.com/

©2026 LIFESHIFT K.K. All Rights Reserved.

本書の全部または一部の無断複写複製（コピー）を禁じます。